

構成の基礎イメージ（案）

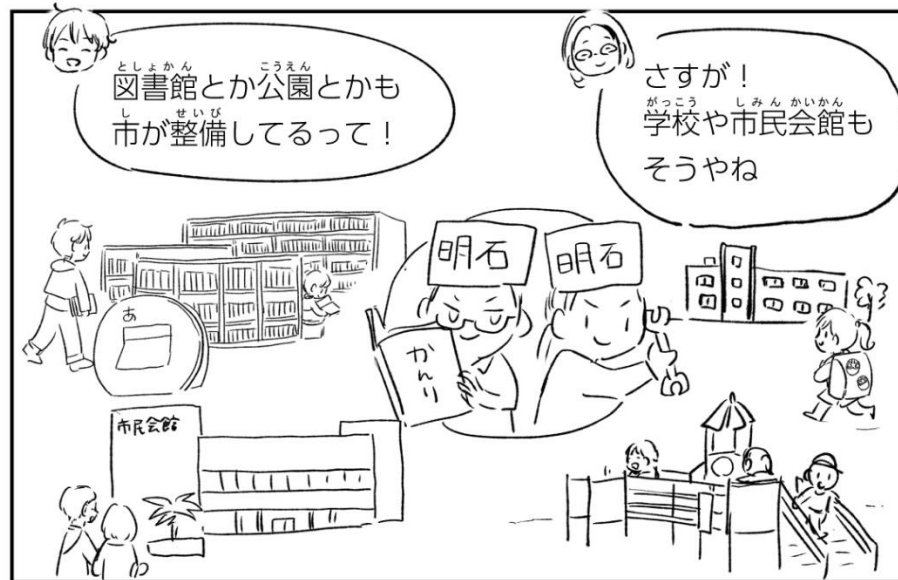
表紙 白書の名称・イラスト 目次（案） 1ページ

〈財政白書〉これまでの部分

- | | | |
|---|--------------------|--------|
| 1 | 財政の基礎（まんが） | 6ページ程度 |
| 2 | 市のお財布の中身 | |
| 3 | お金の使いみちをみてみよう（歳入編） | |
| 4 | お金の使いみちをみてみよう（歳出編） | |
| 5 | 借金（市債）と貯金（基金） | |
| 6 | 財政指標 ～財政の健全度～ | |
| 7 | 公共施設の現状と抱える課題 | |

〈財政運営指針〉これからの部分

- | | | |
|---|---------------------------|--|
| 8 | 今後の財政収支見込みと財政運営上の目標及び取組指針 | |
|---|---------------------------|--|





まんがに置き換え

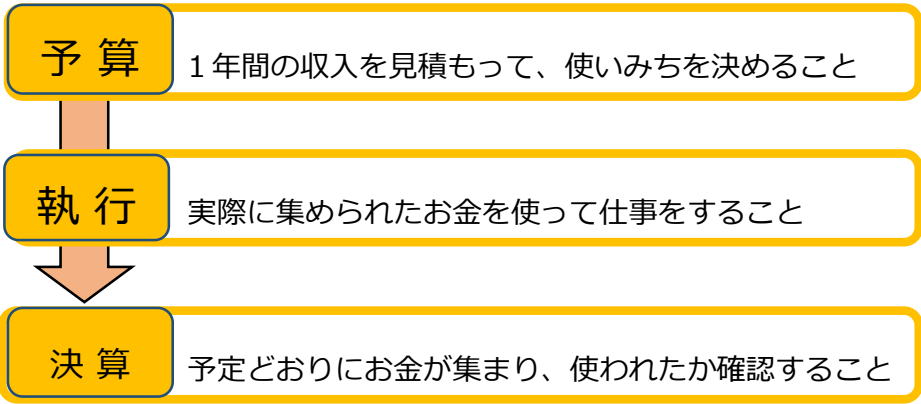
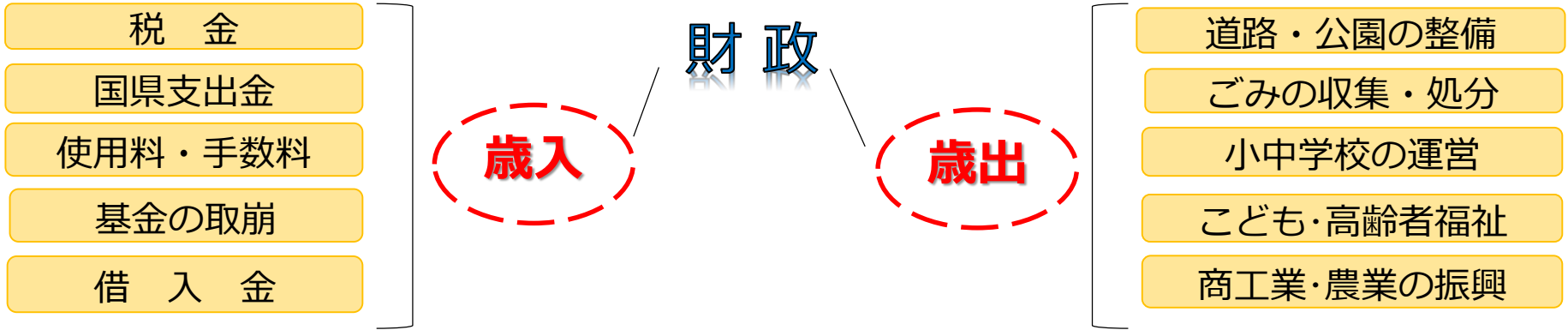
パパたこ



1 財政の基礎

財政ってなあに？

市は、市税などの歳入をもとに、様々な行政サービスを行っているよ。
 1年間の収入を「歳入」、1年間の支出を「歳出」といい、この歳入と歳出を管理し、1年間の収支の実績を確認しているんだ。
 これら一連の活動を「財政」と呼んでいるよ。



予算とは

新しい年度が始まる前に、1年間（4月から翌年3月まで）にどのくらいの収入があるか、その収入をもとにして、どのような行政サービスを行うかを計画し、その費用を見積もります。

決算とは

1年間（4月から翌年3月まで）で、実際の収入（もらったお金）と実際の支出（使ったお金）をまとめたものです。

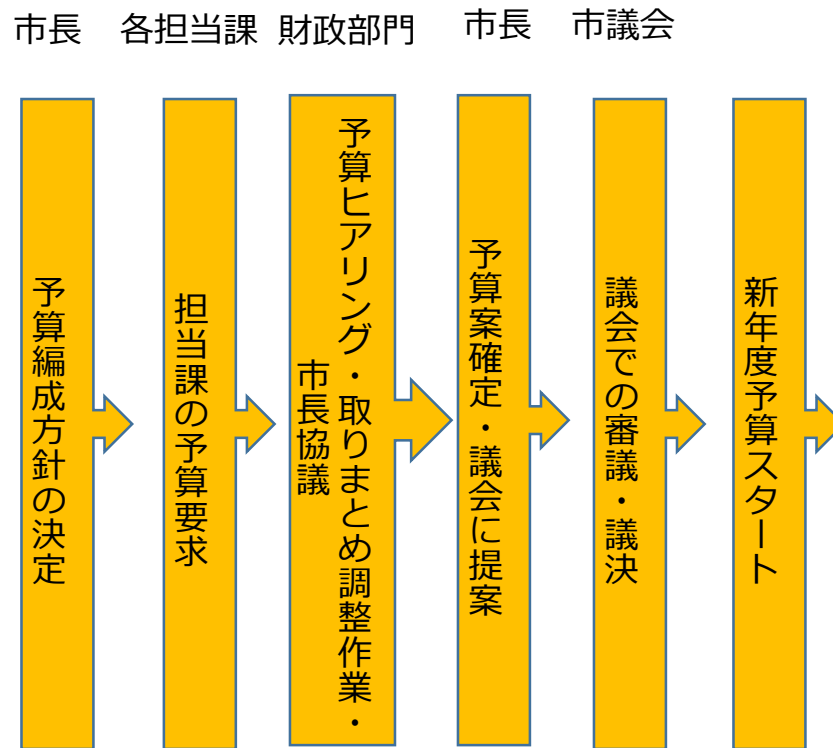
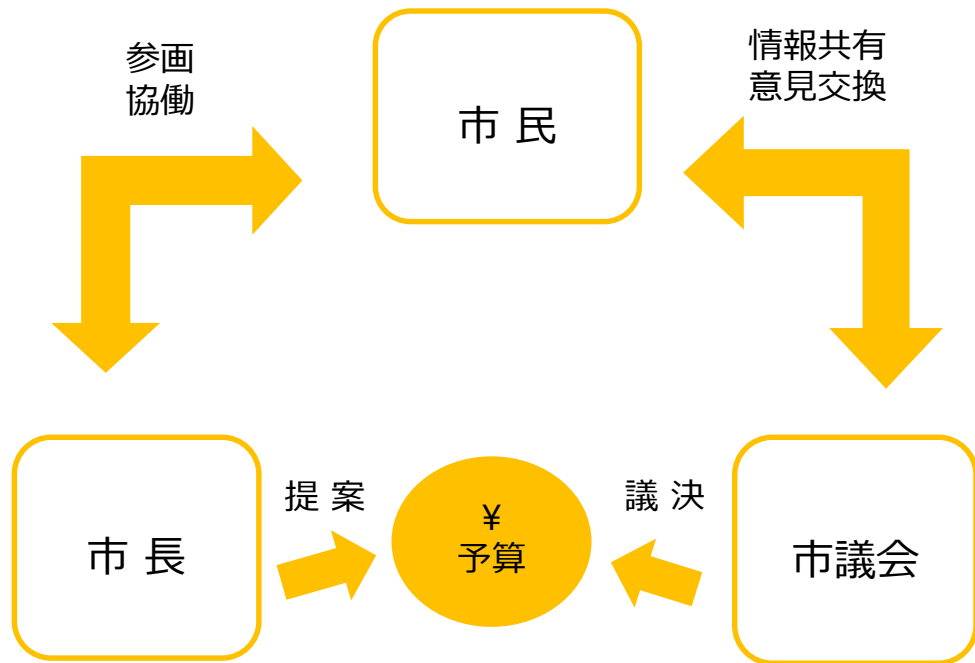


予算と決算

いとたこ

まんがに置き換え

予算編成のスケジュール



市長は1年間の行政サービスを検討して予算案としてまとめて市議会に提案しているんだ。市議会は提案された予算案をいろいろな面から審議して議決により予算が決定するよ。



2 市のお財布の中身

市のお財布はどんな種類があるの？



会計と予算規模 (令和6年度当初予算)



明石市の予算は、一般会計のほか、11の特別会計、2の企業会計の3種類の会計があるよ。市の財政状況を把握する上で欠かせない、一番大きな会計であり、全般的に市民のみなさんに関わる行政の基本的な事業の経費をまとめた一般会計を中心に財政状況を見ていくよ。

会計	内容
一般会計 1,263億円	福祉、子育て、教育、防災、ごみ処理、道路や公園などの施設整備など基本的な行政サービスを行う会計
特別会計 699億円	特定の目的のための会計（国民健康保険事業・介護保険事業・後期高齢者医療事業など）
企業会計 262億円	自治体が民間企業に近い方針で運営する会計（水道事業・下水道事業）

3 お金の使いみちをみてみよう（歳入編）

次に、歳入の内訳としてどのようなものがあるのかを見ていこうか。



歳入項目	内容
市税	市民税や固定資産税、都市計画税などの税金
譲与税・交付金	国税や県税のうち、市に配分されるお金（地方消費税交付金など）
地方交付税	地方自治体ごとの税収等の財源の格差を調整するために、国から配分されるお金
国県支出金	特定の事業（学校の改修工事など）に対して、国や県から使い道を指定して交付されるお金
負担金・使用料等	保育所の保護者負担金や、市営住宅や駐車場などの使用料、住民票・市税証明書の発行手数料など
市債	公共施設の整備などの建設事業を行う際の財源として、市が国や銀行などから借り入れたお金
その他	寄附金や市有財産の貸付・売払、前年度からの繰越金、基金（貯金）を取り崩したお金、上記どこの項目にも該当しないお金



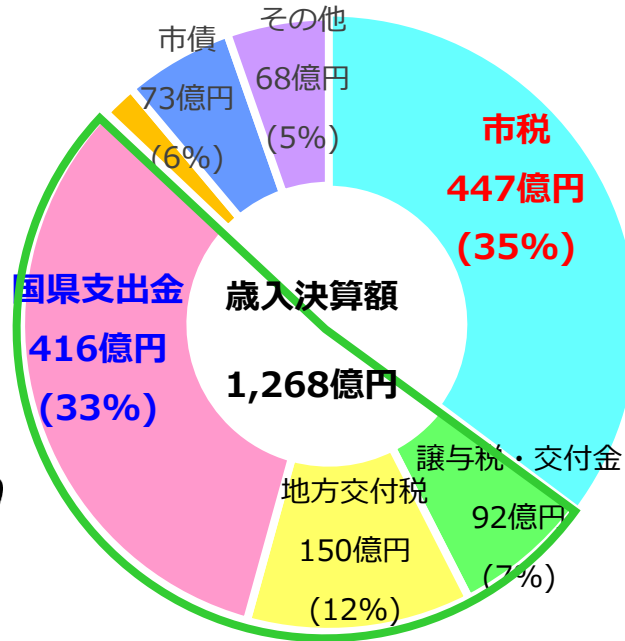
令和4年度 歳入の内訳

一番多いのは市税だけど、意外と割合は少ないんだね



最も大きな割合を占めるのが市税で35%です。

国や県からもらうお金で全体の50%以上を占めているよ。

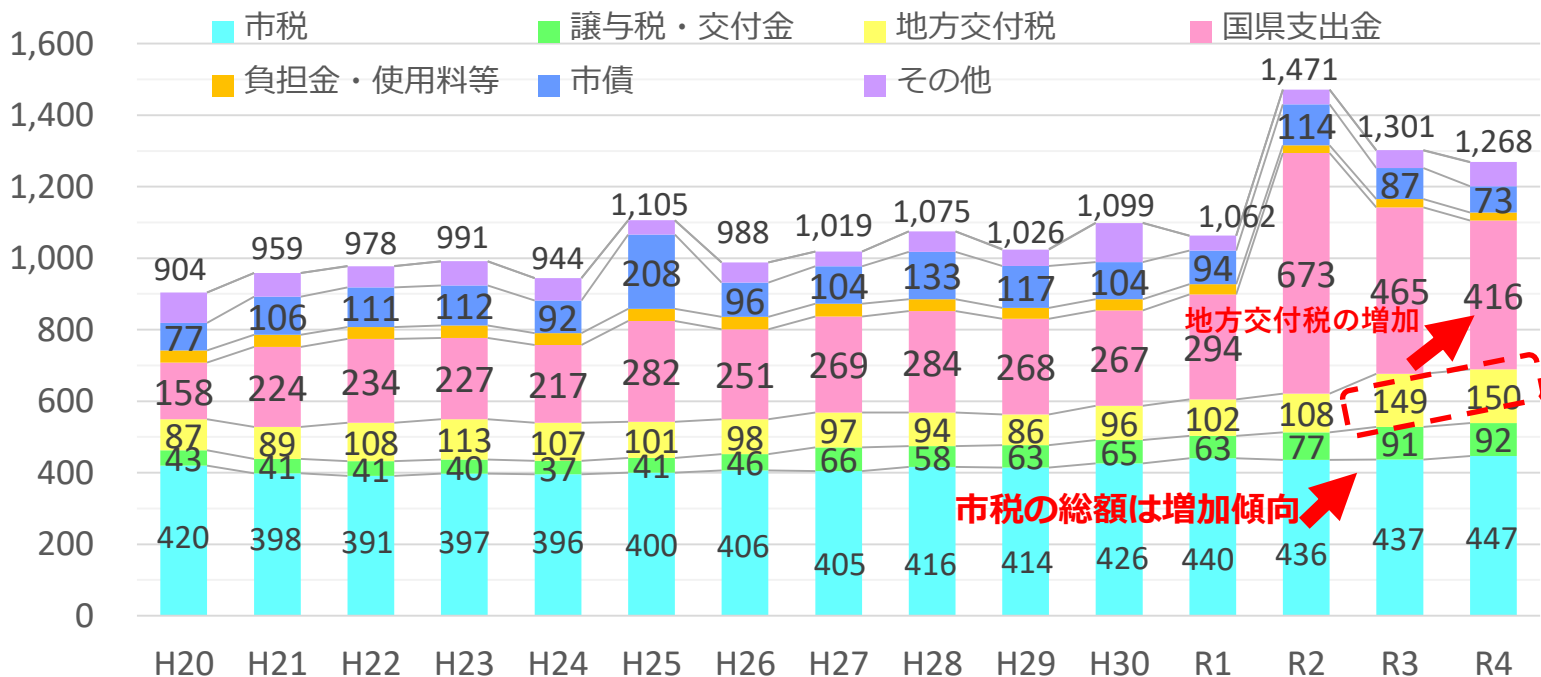


歳入の推移 (過去15年間)

おとたこ



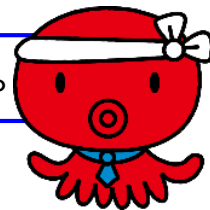
令和2年度からはコロナ対応の影響で、全体的に金額が増えているよ。最近では市税や地方交付税が増えているね。



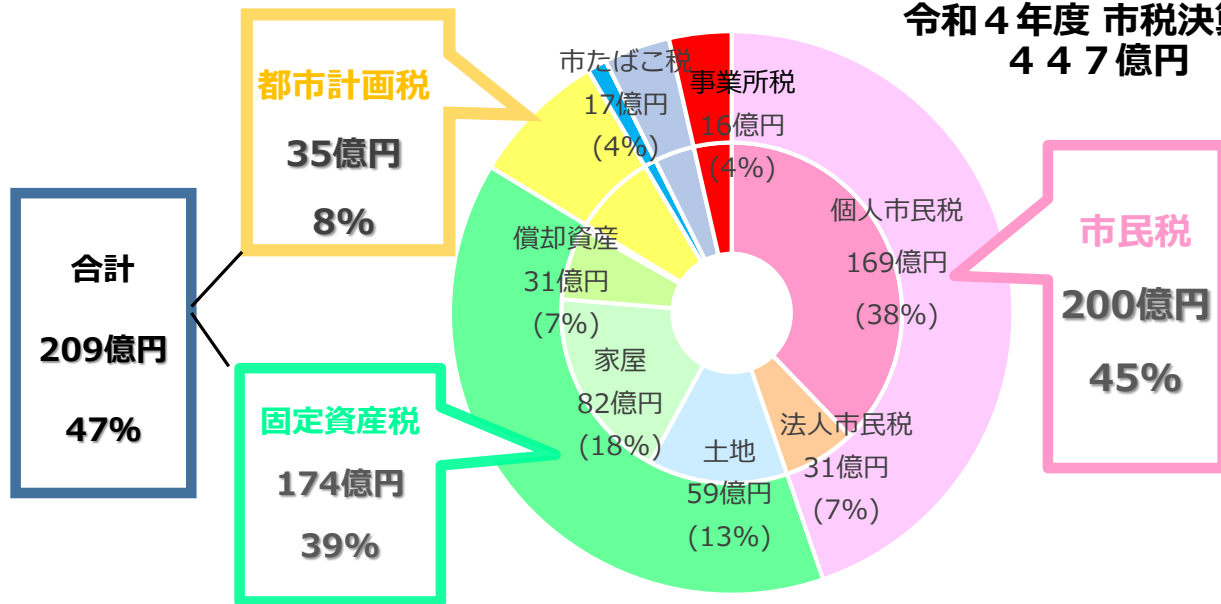


市税収入の内訳

次に、市税の構成割合について見ていこう。



令和4年度 市税決算額
447億円



市民税が45%、固定資産税・都市計画税の合計が47%で、市税の大部分を占めていることが分かるね。



市民税

個人市民税・・・個人の前年の所得に応じてかかる税

※個人市民税は、県民税と合わせて住民税と呼ばれます。

法人市民税・・・市内の事業所等にかかる税

固定資産税・・・土地・家屋・償却資産（事業用の機械等）にかかる税

都市計画税・・・市街化区域内の土地・家屋にかかる税

事業所税・・・市内の事業所等で事業を行う法人または個人にかかる税（人口が30万人以上となったことにより、H30.7より課税開始）

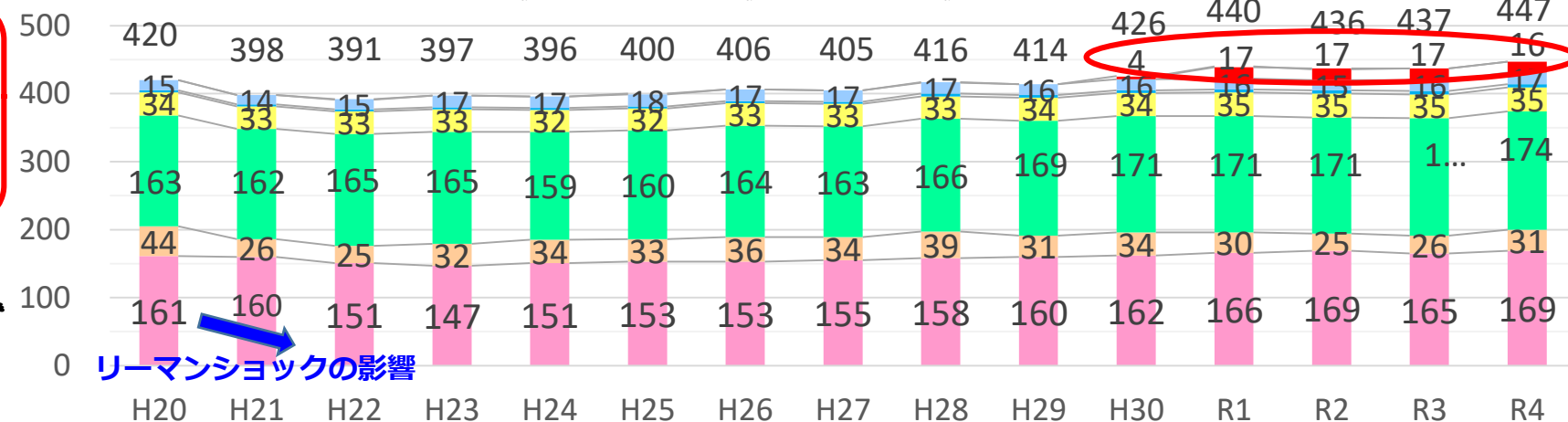
軽自動車税・・・原動機付自転車・オートバイ・軽自動車などにかかる税

市たばこ税・・・たばこ製造者等が市内の小売販売業者に売り渡したたばこにかかる税



市税収入の推移

(億円)



最近、市税が増加傾向なんだ。なぜだろう？



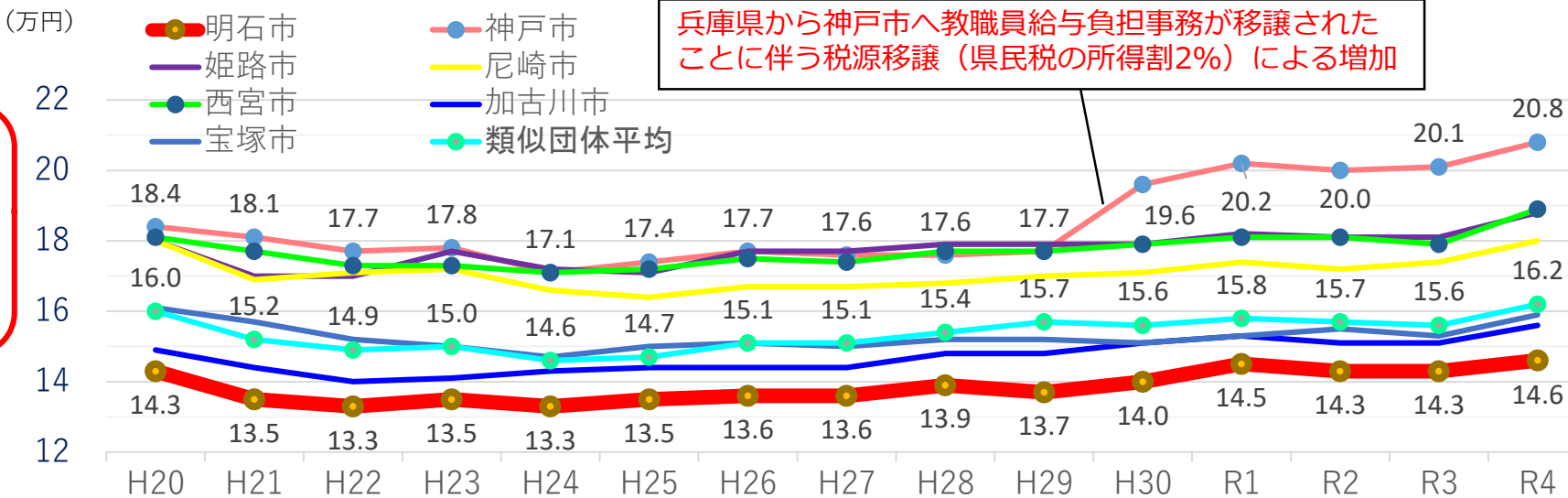
リーマンショックの影響

H30より事業所税の課税開始



市税収入の人口一人当たりの近隣市比較

(万円)



兵庫県から神戸市へ教職員給与負担事務が移譲されたことに伴う税源移譲（県民税の所得割2%）による増加

市税収入は、近隣市と比べると、人口一人当たりは少ないんだね。



みんなのギモン 1

人口が増えると市税収入は増えるの？



明石市は人口が増えているし、気になるよね。
人口が増えると税金を納めてくれる人が増えるわけだから、一般的には市税収入は増えるよ。



でもね、下の表をよく見て。
人口が減っている市でも市税収入は増えているんだ。

人口に関連する主な歳入項目

(※神戸市は教職員給与負担事務の税源移譲(県民税の2%)による影響あり)

市	住民基本台帳人口 (人)			個人市民税 (億円)			固定資産税 (億円)			市民1人あたり市税収入 (千円) (市税収入全体÷住民基本台帳人口)		
	H26.1.1	R5.1.1	増減率	H25	R4	増減率	H25	R4	増減率	H25	R4	増減率
明石市	297,003	305,404	+2.8%	153	169	+10.1%	160	174	+8.4%	134.5	146.4	+8.8%
神戸市	1,552,829	1,509,916	△2.8%	908	1,286 (※)	+41.6%	1,089	1,173	+7.7%	174.3	208.0 (※)	+19.4%
姫路市	533,868	528,459	△1.0%	268	299	+11.5%	424	447	+5.4%	174.7	187.5	+7.3%
西宮市	482,506	482,796	+0.1%	365	421	+15.3%	309	334	+7.9%	172.0	188.8	+9.8%
尼崎市	466,034	458,313	△1.7%	227	261	+14.7%	337	353	+4.7%	164.5	180.2	+9.5%
加古川市	271,426	259,884	△4.3%	136	141	+3.6%	181	189	+4.3%	143.6	156.1	+8.7%
宝塚市	234,290	230,788	△1.5%	162	173	+6.8%	133	137	+2.7%	149.5	158.0	+5.7%

人口が減ったら税金を払う人も減るでしょ。それなのに、なぜ市税収入が増えるの？



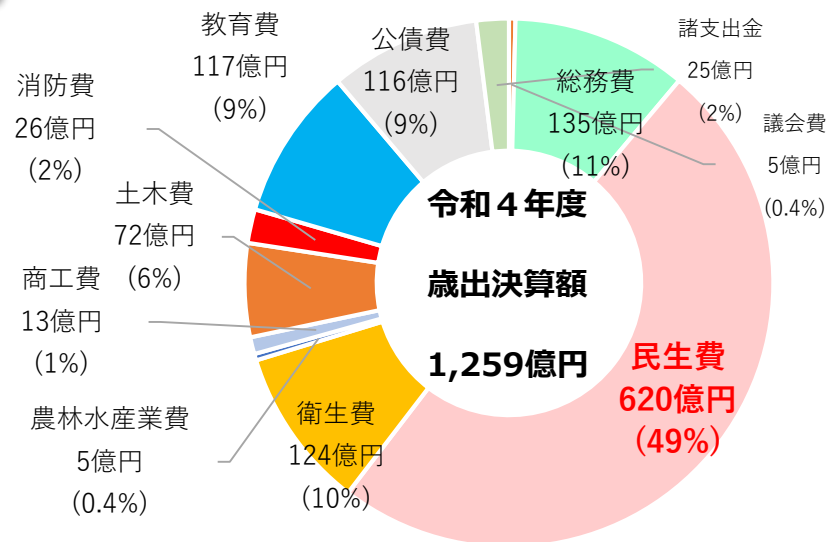
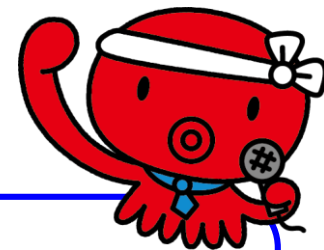
人口の増加以外にも、市税収入に影響する要因があるんだよ。



歳入の種類 人口の増加による影響 人口の増加以外の要因

個人市民税	・納税義務者数の増加 (所得等に応じて)	・一人あたり所得の増加 ・納税義務者数の増加 (退職年齢引き上げ、女性の社会進出) ・徴収率の向上
固定資産税 都市計画税	・納税義務者数の増加 (土地・家屋の資産価値に応じて)	・地価の上昇 ・徴収率の向上
事業所税	・人口30万人以上で課税 (H25：課税なし ⇒ R4：16億円)	-
※その他	・地方交付税、地方消費税交付金の増加 (5年に1度の国勢調査人口が影響)	

4 お金の使いみちをみてみよう（歳出編）



次は、歳出について見ていこう。
特に民生費が、半分を占める状況となっているよ。その他にも総務費、衛生費(保健・ごみ処理)、公債費(借金の返済)、教育費、土木費にもたくさんのお金が使われているよ。



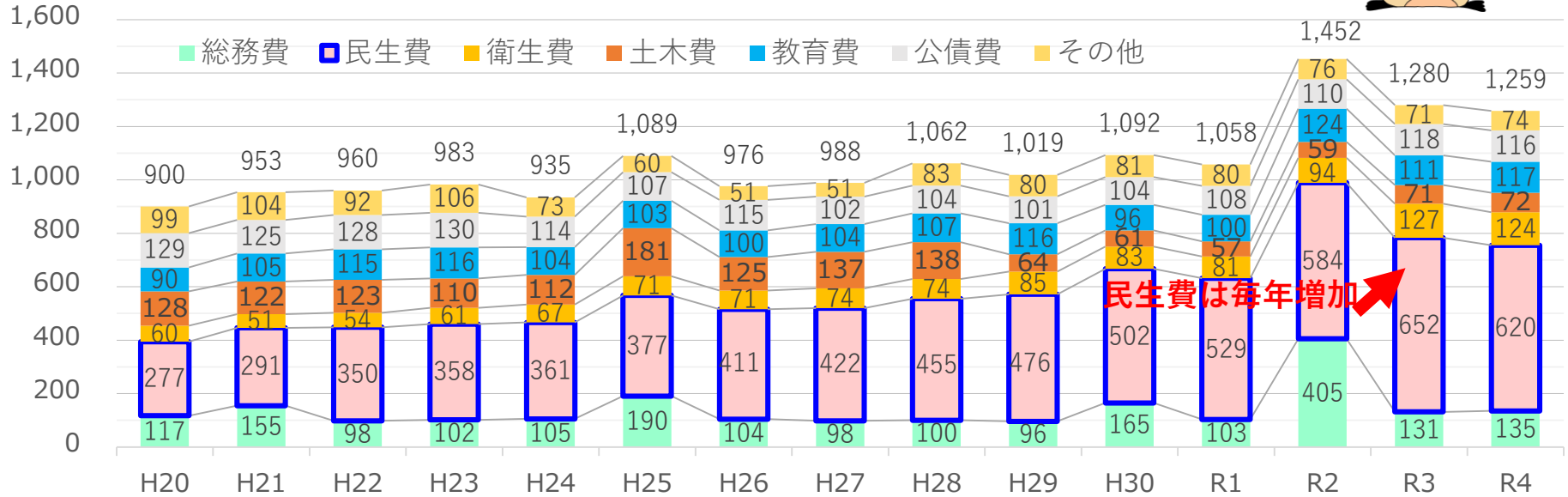
民生費の割合が高いね！

議会費		議員の報酬や市議会の運営の経費	5億円	土木費		道路や公園、インフラ整備などの経費	72億円
総務費		市の一般的な管理事務の経費	135億円	消防費		防災、消防、救急の経費	26億円
民生費		保育園の運営、高齢者、障がい者、生活保護などの経費	620億円	教育費		学校教育や図書館などの経費	117億円
衛生費		医療や環境保全、ごみ処理などの経費	124億円	公債費		借りたお金の元金や利子を返済する経費	116億円
農林水産業費		農林水産業の振興や普及のための経費	5億円	諸支出金		上下水道の一部を負担する経費	25億円
商工費		商工業の振興や育成、商店街活性化などの経費	13億円				

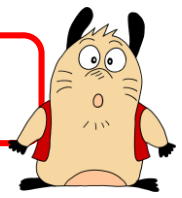


歳出の推移（過去15年間）

(億円)



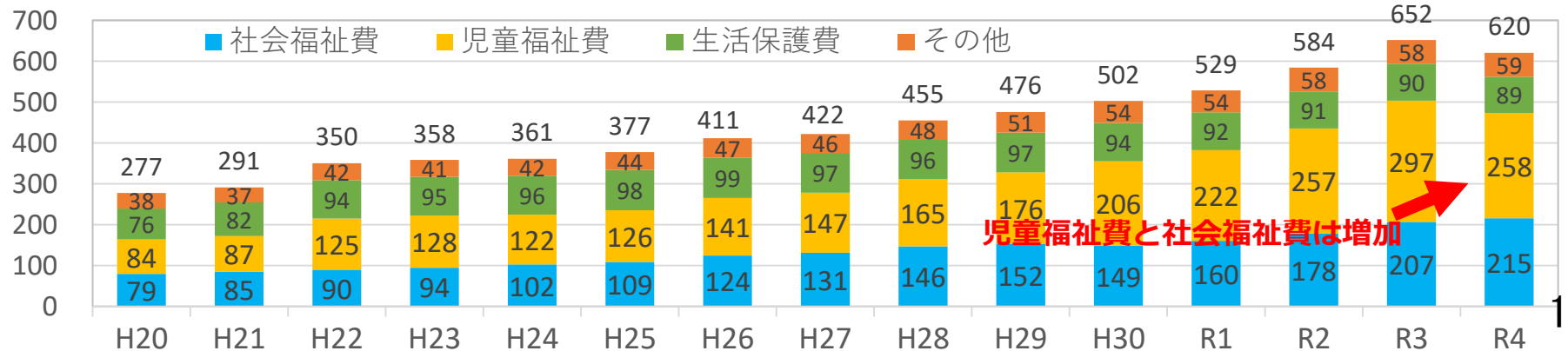
民生費は15年間で2倍以上に増えているなあ。どうしてだろう。



民生費の推移（過去15年間）

またこ

(億円)



歳出の半分近くを占める民生費がなぜ増加したのかを見てみよう。どうやら社会福祉費と児童福祉費が要因のようだね。





民生費を他市と比べると (民生費の構成比)

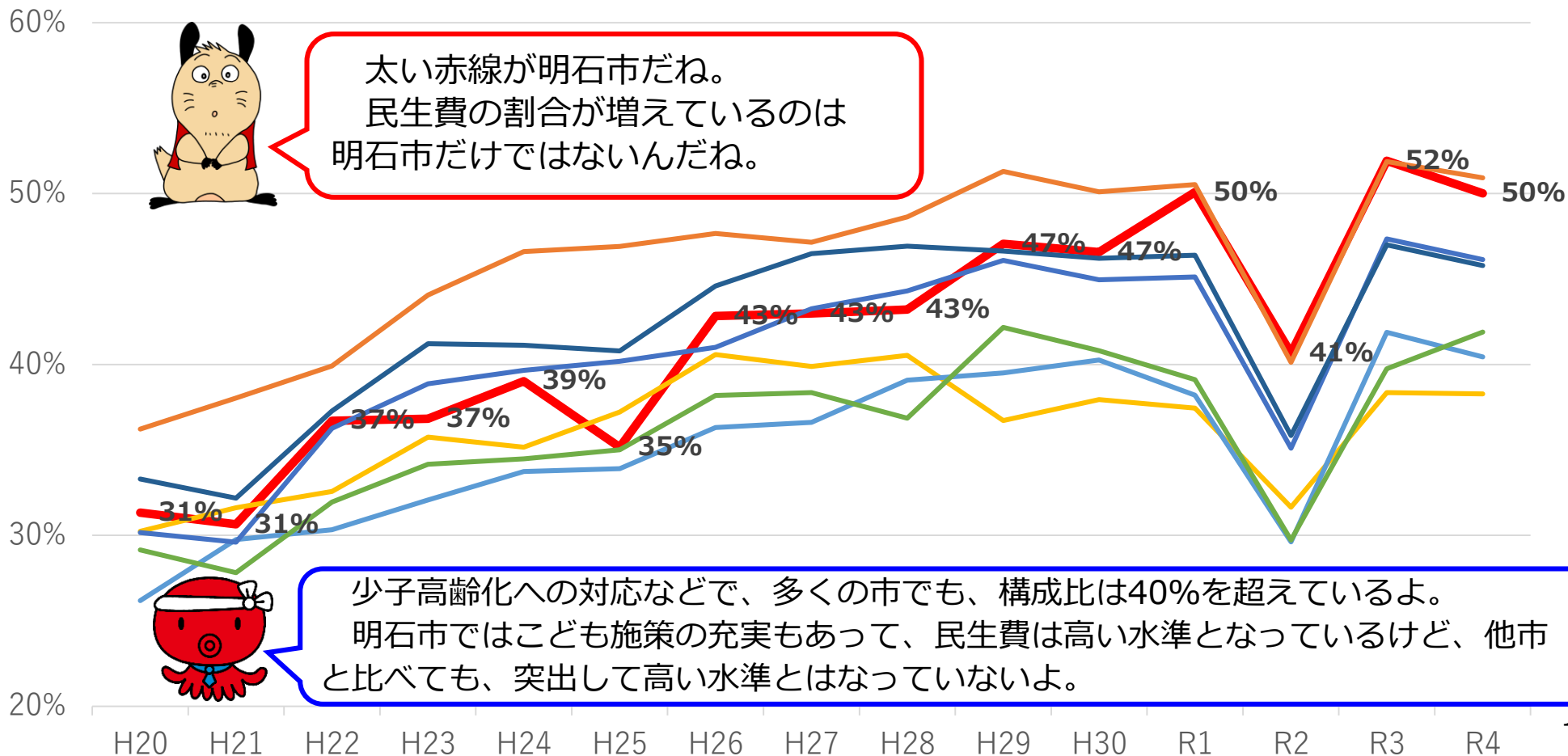
平成20年度は30%台前半だったけど、
現在は50%まで上昇しているんだ。



民生費が歳出全体のどれくらいの割合なのか見てみましょう

(構成比)

明石市 神戸市 姫路市 尼崎市 西宮市 加古川市 宝塚市



太い赤線が明石市だね。
民生費の割合が増えているのは
明石市だけではないんだね。

少子高齢化への対応などで、多くの市でも、構成比は40%を超えているよ。
明石市ではこども施策の充実もあって、民生費は高い水準となっているけど、他市
と比べても、突出して高い水準とはなっていないよ。

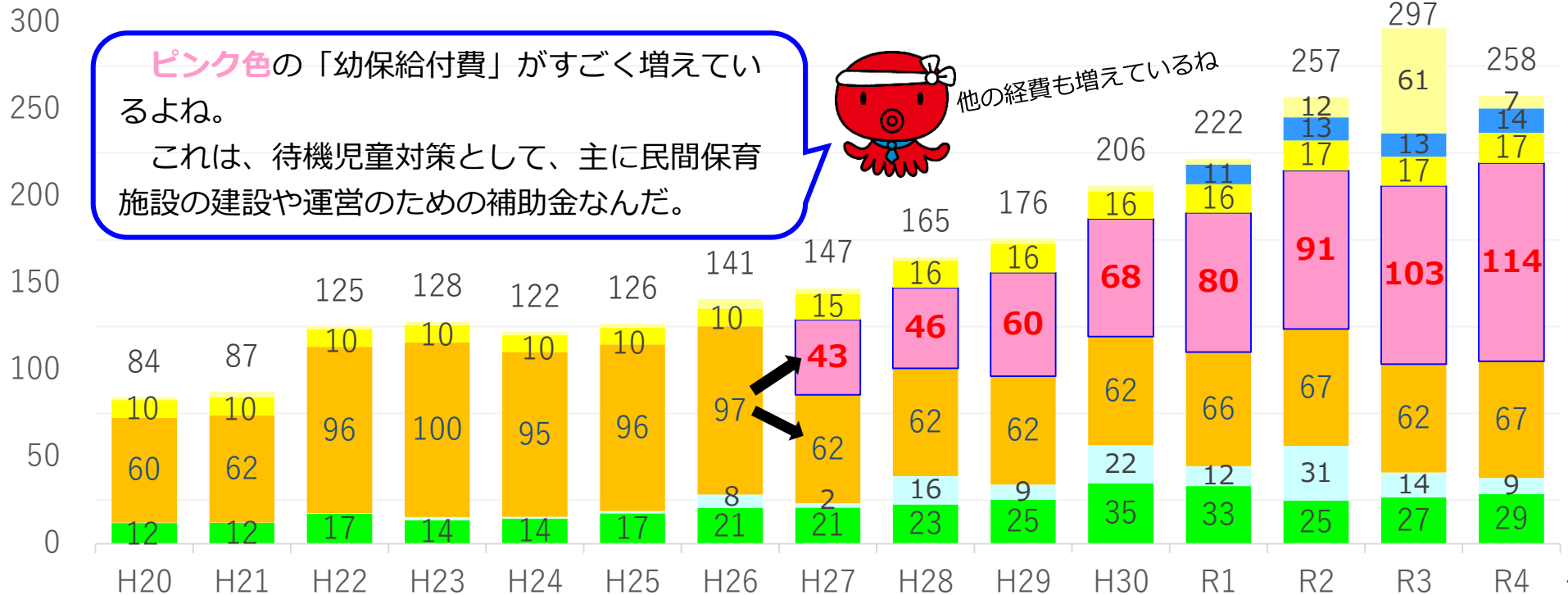
みんなのギモン 2

こどものための予算を 増やしたって聞くけど本当？



こどものためのお金は、民生費の中にある「**児童福祉費**」を見ればいいんだ。下のグラフは児童福祉費の内訳の推移だよ。

(億円) ■ 児童福祉総務費 ■ 児童福祉施設費 ■ 児童措置費 ■ 幼保給付費 ■ 保育所費 ■ こどもセンター費 ■ その他



ピンク色の「幼保給付費」がすごく増えているよね。

これは、待機児童対策として、主に民間保育施設の建設や運営のための補助金なんだ。



他の経費も増えているね



お金のやりくり

こどものために必要なお金は増えているけど、どうやってそのお金をやりくりしているのかな？



すごくいい質問だね！
市に入ってくるお金にはいろいろな種類があるんだ。例えば、歳入の市税や地方交付税は、使い道が自由で、どんな経費にも活用することができ、「**一般財源**」と呼ばれているんだ。



む、難しそう・・・



大丈夫！

その市税などの「**一般財源**」は、市が負担しなければならない費用に活用することになるんだよ。

例えば、道路を作るために1億円が必要だとするよ。その半分を国の補助金でもらうと、**市の負担**は残りの5千万円だよ。この部分に「**一般財源**」である市税などを活用することになるんだよ。



まずは、こどものために必要なお金について、市の負担がいくら必要となっているのかを調べて、そのお金をどうやってやりくりしてきたのかを調べていくよ。それでは、次のページから見ていこう！

うんうん



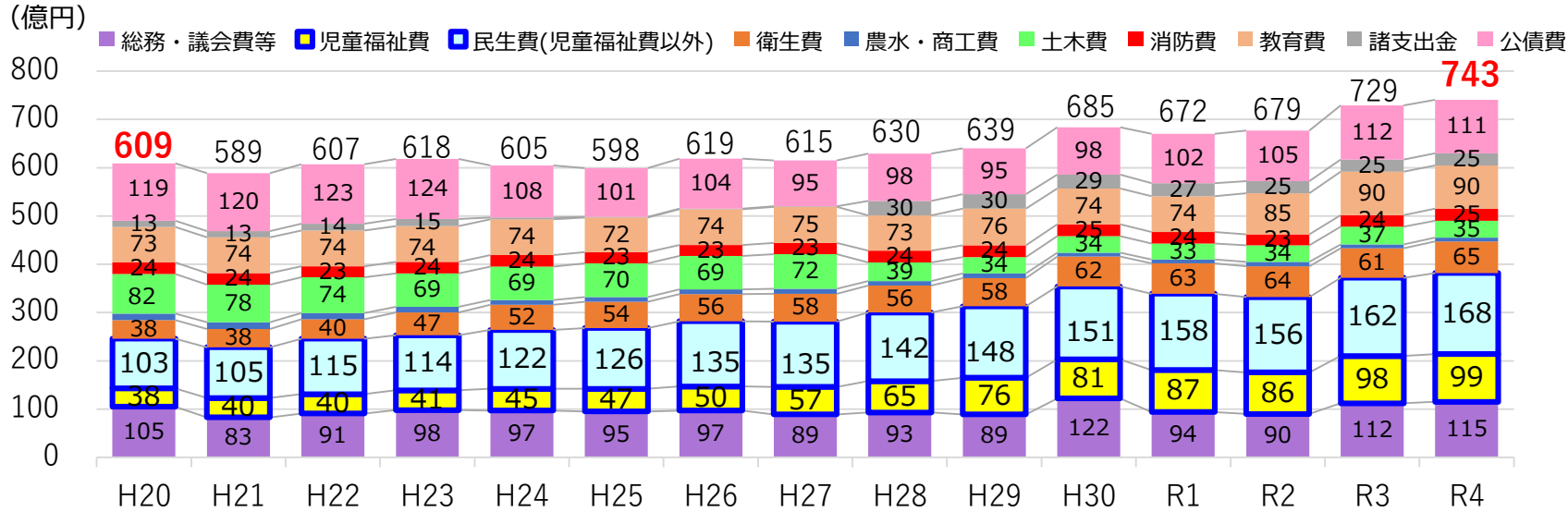
※歳入のうち主な一般財源・・・市税、譲与税・交付金、地方交付税、負担金・使用料など



歳出の一般財源（市の負担）はいくら増えたか

歳出の一般財源は、
15年間で**134**億円増加

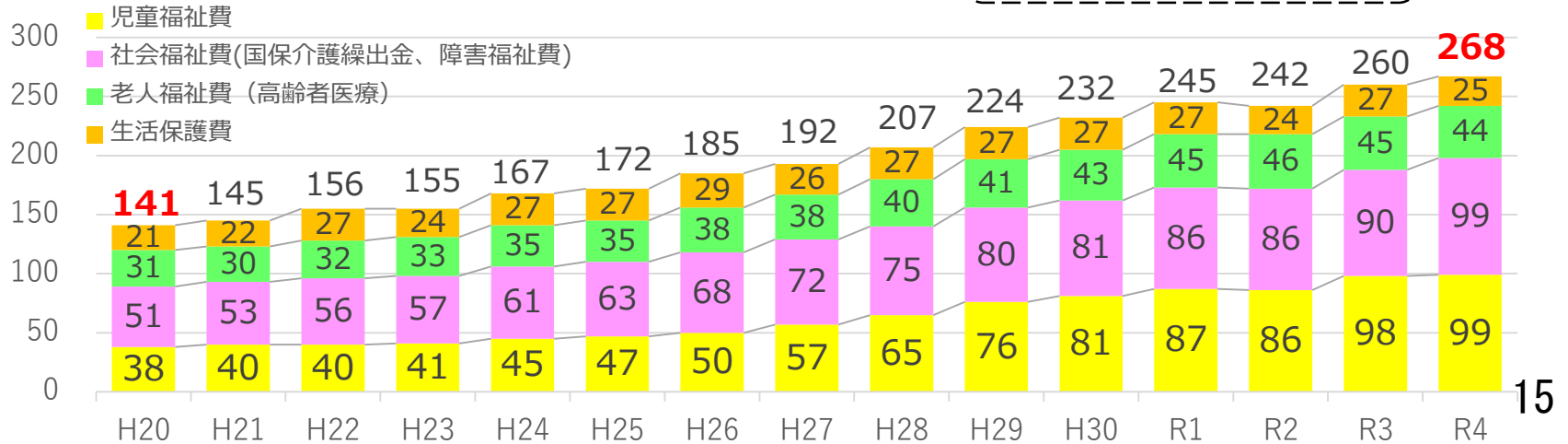
この15年間で、民生費が大きく増加してるなあ。大丈夫かな？



民生費の一般財源（市の負担）はいくら増えたか

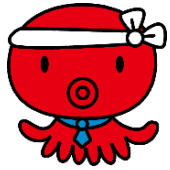
民生費の一般財源は、
15年間で**127**億円増加

歳出の増加のほとんどが民生費だったんだ。





歳入の一般財源（自由に活用できるお金）はいくら増えたか



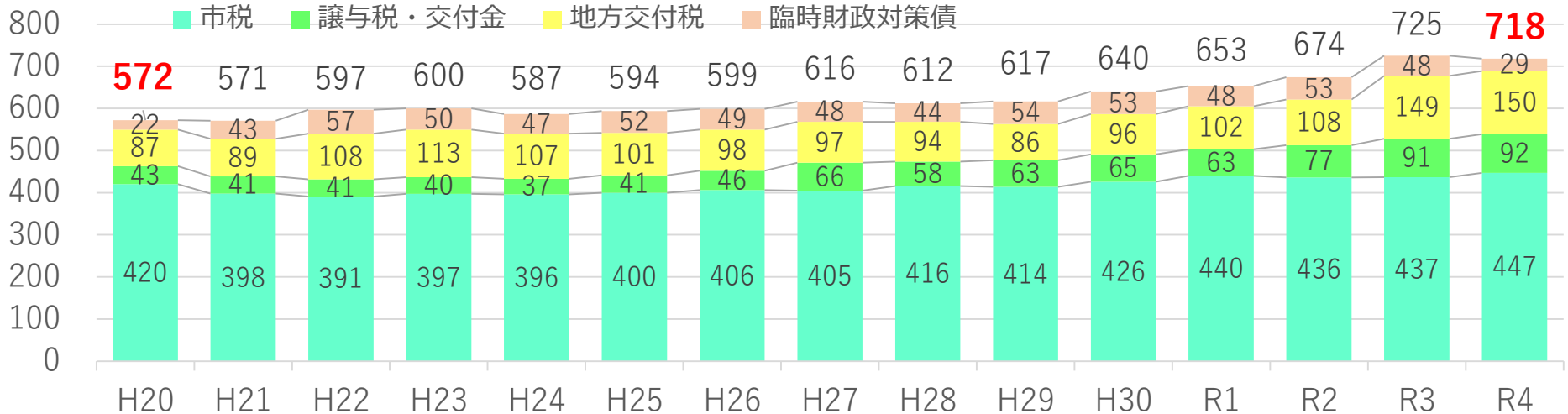
民生費にお金を使うためには、それ以上の歳入が必要だね。
下のグラフは、経常的な4つの歳入の一般財源の過去15年間の推移だよ。15年前と比べるとどうなっているかな？

経常的な4つの歳入は、**146億円**増加しているなあ。
歳出の**134億円**よりも多いのか！でも、あまり余裕はないぞ！



歳入の一般財源は、15年間で **146億円** 増加

(億円)



こどものための事業にお金を使うことができたのは、市税や地方交付税など、歳入の一般財源が増加したからなんだ。

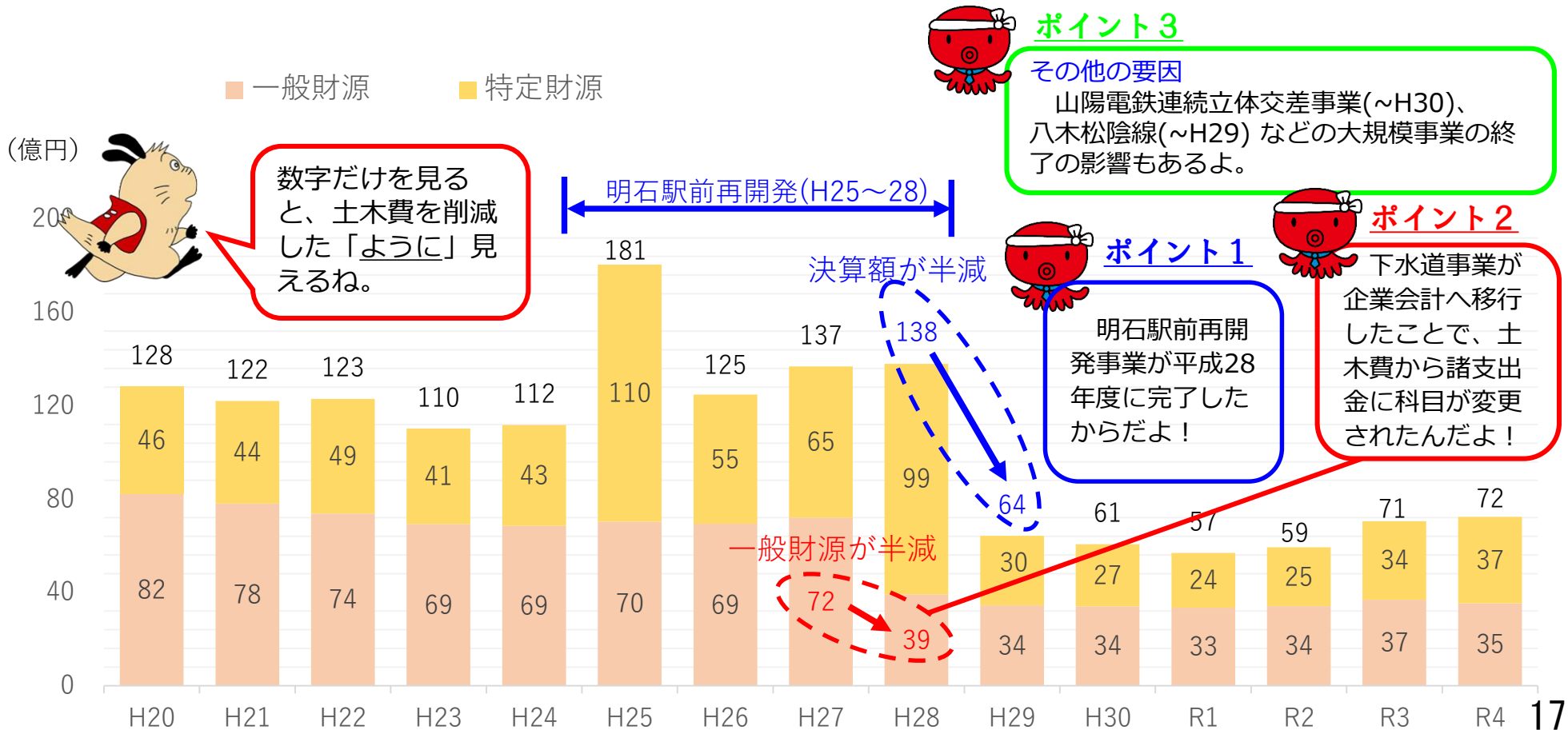
でも、あまり財政的に余裕はないので、毎年度の決算の状況を見ながら、必要に応じて、事業の継続について判断していく必要があるんだよ。

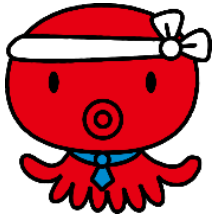
みんなのギモン 3

道路などインフラ整備のための予算を削減したって本当？

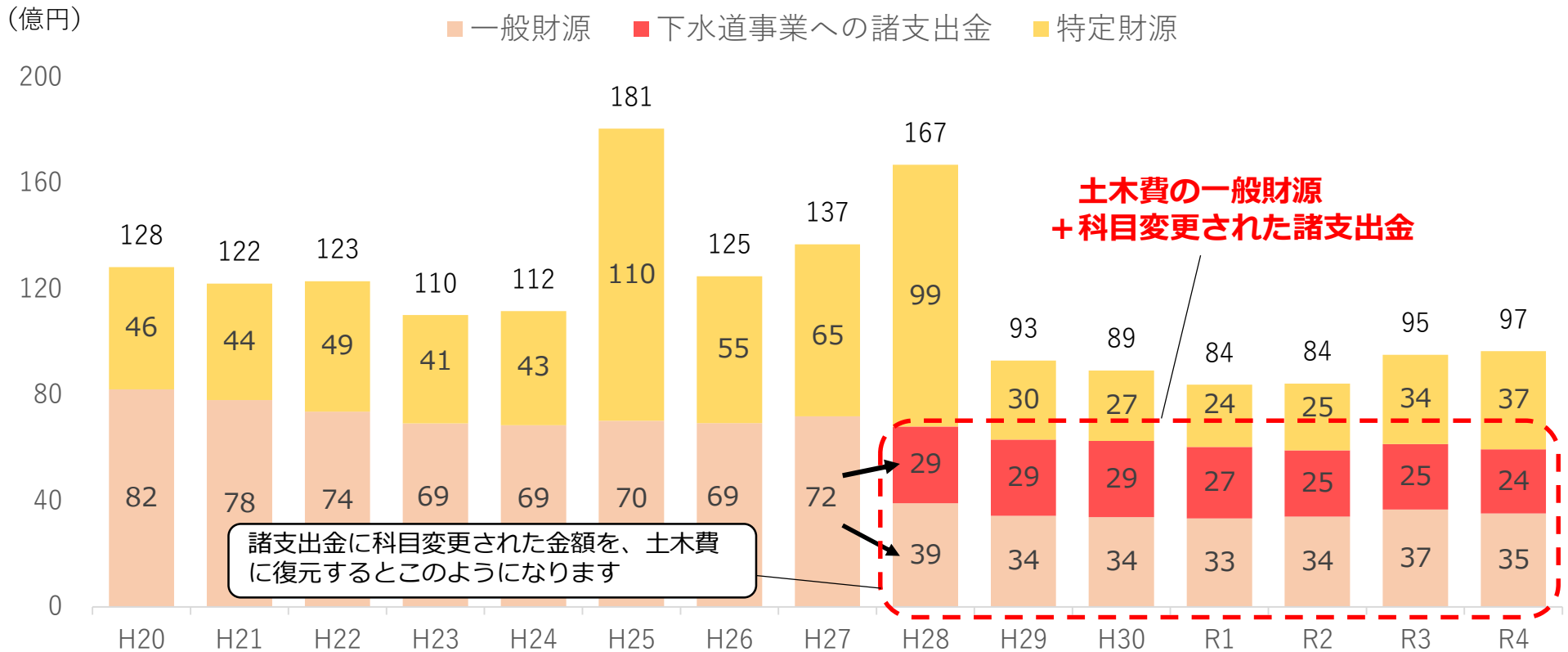


土木費は、大規模な事業がある年とない年で、決算額の差が大きい経費なんだ。本当に土木費を削減したのかどうか、決算額と一般財源を意識しながらグラフを見てね！





さらにポイント2を解説するよ。
下水道事業は単なる科目変更だから、市の財布から出ていくお金が減ったわけではないんだ。諸支出金に科目変更された分を、土木費に戻してみたよ。
どうだい？土木費の一般財源はほとんど減っていないことが分かるね。



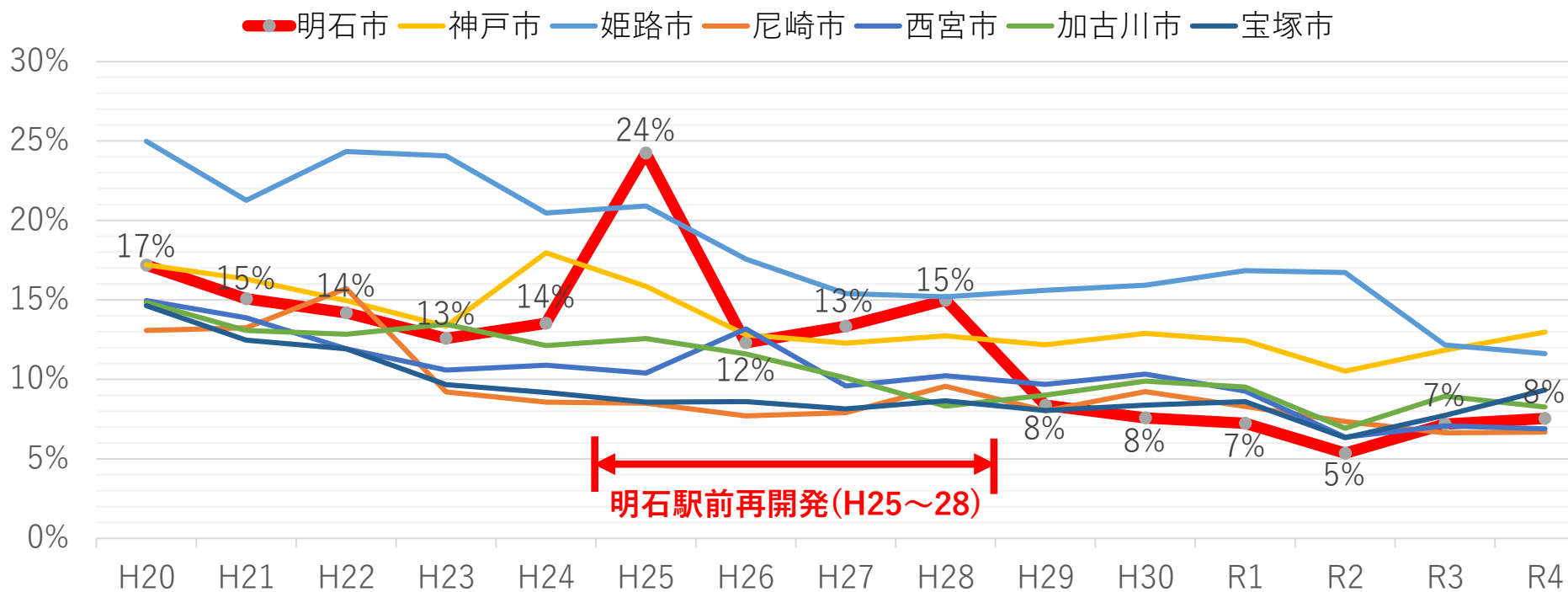


土木費の推移



下のグラフは、歳出全体に占める土木費の構成比の推移を他市と比較したものだよ。明石駅前再開発のような大規模事業があると一時的に大きく変動するんだ。

どの市も土木費は減少しているんだね。
以前みたいに公共施設をドンドン整備する時代じゃなくなったのかな。



5 借金（市債）と貯金（基金）



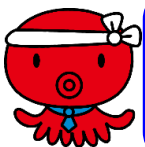
市債残高の推移（過去10年間）

市債って、借金のことだよな？
明石市も銀行からお金を借りてるの？

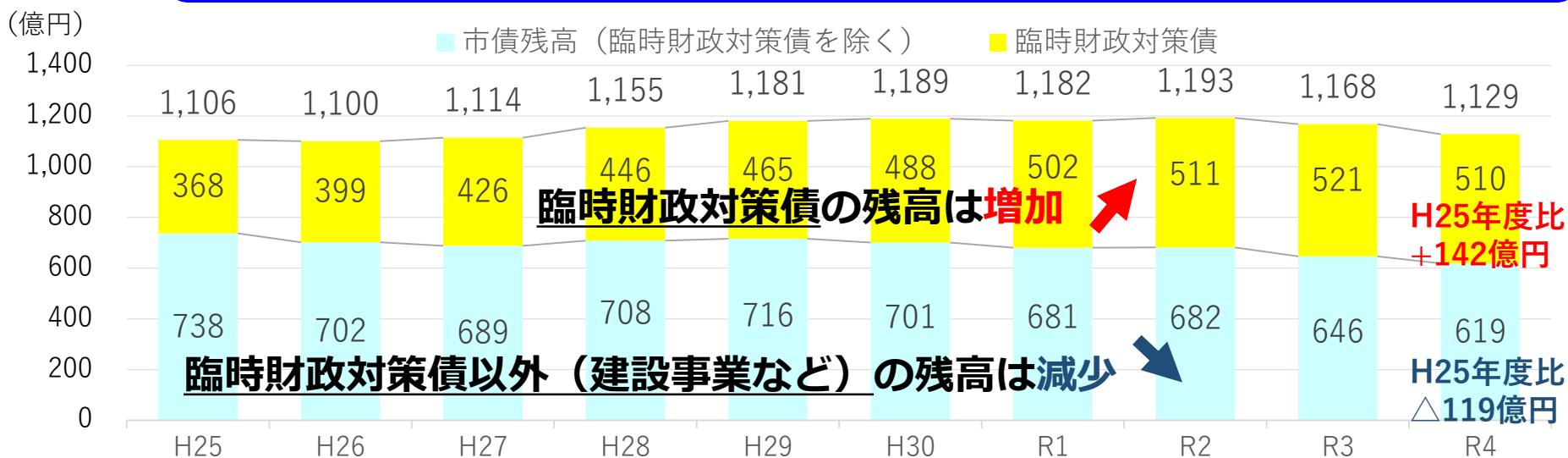


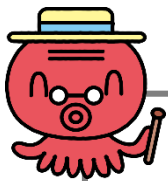
そうだよ！自治体も国や金融機関からお金を借りながら財政運営をしているんだ。
令和4年度の決算時点での市債の残高は1,129億円だよ。

そんなにあるの？市債全体の残高は、10年間で23億円増えてるんだね。
臨時財政対策債っていうのが増えたみたいだけど、これは何だろう？



臨時財政対策債は、簡単に言うと、国が交付すべきお金が足りないから、国に代わって市が借金したものだよ。ただし、その借金を返済するお金は、国が出すから、明石市の負担がない借金なんだ。





市債残高の他市比較 (市民1人あたり)

令和4年度の市債残高を他市と比較してみましょう

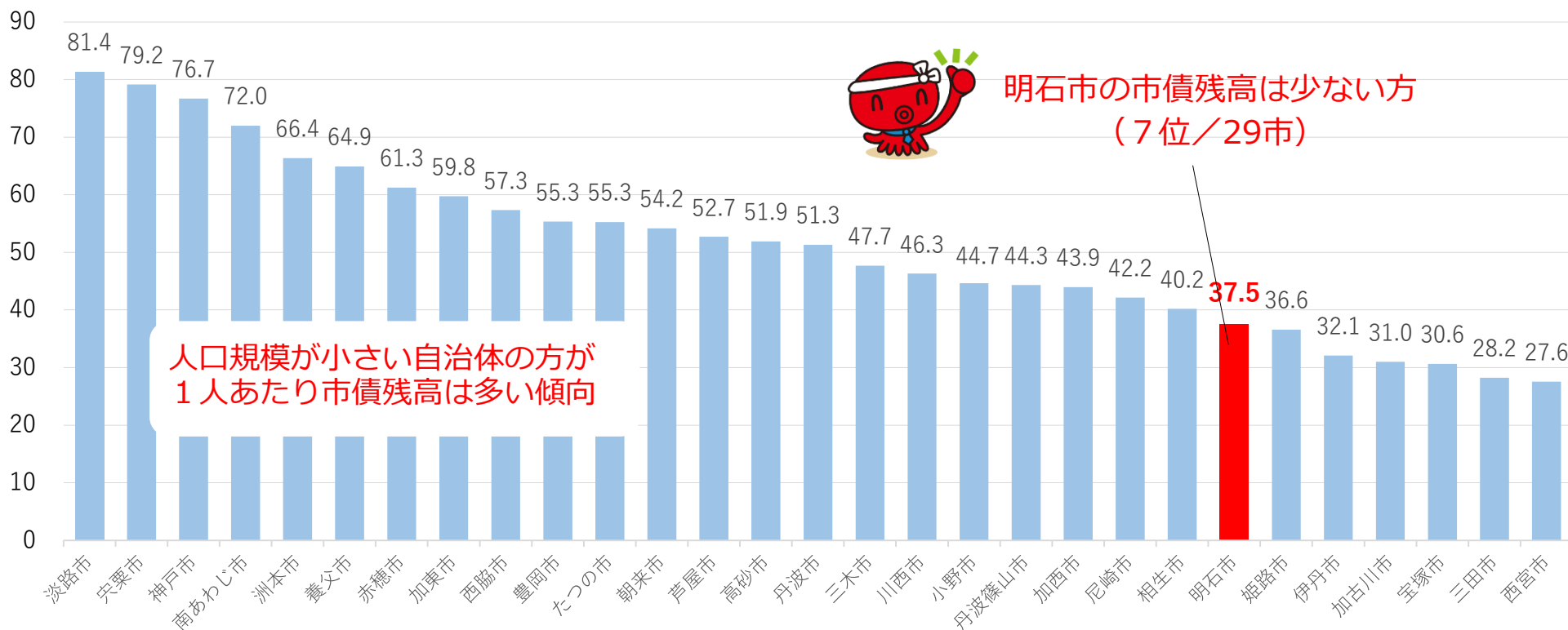


グラフは、市債残高を各市の人口で割った「市民1人あたりの市債残高」を高い方から順番に並べたものだよ。

単純な市債残高だけで比較すると、規模の大きな自治体ほど市債残高も多い傾向があるから、人口で割ることで条件を合わせてるよ。

(万円)

令和4年度 市民1人あたり市債残高 (県下29市)



明石市の市債残高は少ない方
(7位/29市)

人口規模が小さい自治体の方が
1人あたり市債残高は多い傾向

みんなのギモン 4

なぜ市は借金をするの？



財政負担を平準化するため！

公共施設の整備にはすごくお金がかかるんだ。

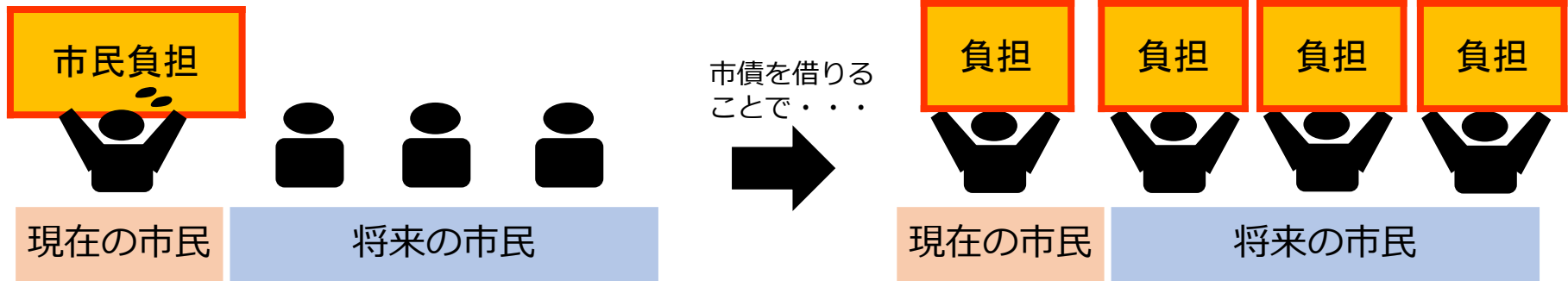
もし、工事費を現金でその年度に支払うと、他の市民サービスに回すお金が足りなくなってしまうんだ。

それに、借金を返済していく際に、国から交付金がもらえる市債もあって、現金でその年度に支出するよりも、財政的に有利となる場合があるからなんだよ。

みんなの負担を公平にするため！

公共施設は将来にわたって長く使用するけど、工事した年度の税金ですべて負担してしまうと、今住んでいる市民だけが負担することになってしまうよ。

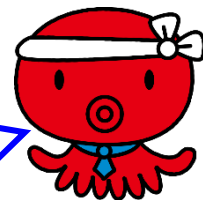
市債を活用することにより、長く利用される公共施設などについては、世代間の負担を公平にすることができるんだ。



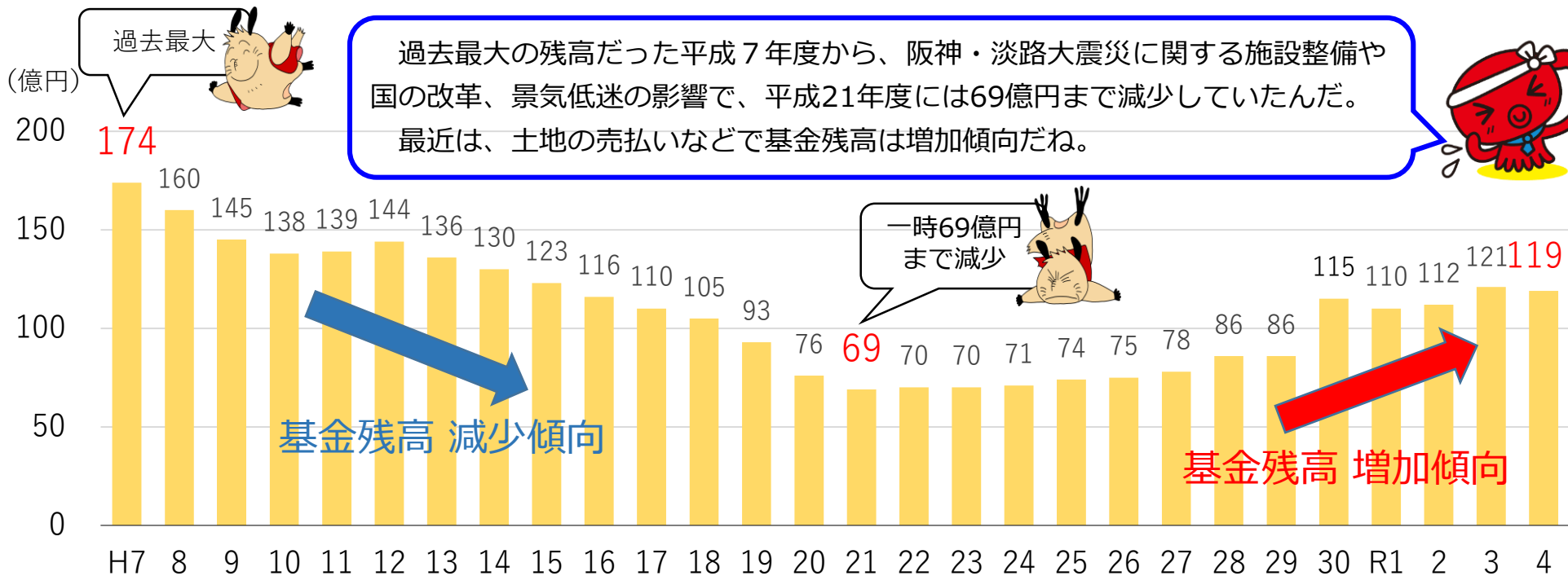


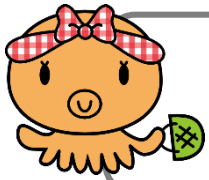
3基金（貯金）残高の推移 （平成7年度～）

市の貯金のことを「基金」と言うんだ。
明石市には、目的に応じていろいろな基金
があるんだよ。



名称	目的
財政基金	災害などの不測の事態に備えたり、景気動向などによる市税収入の減少などに伴う年度間の収支不足を補うため
減債基金	年度によって市債の返済が多額になる場合などに備え、必要な財源を確保するため
特別会計等財政健全化基金	特別会計等の財政の健全な運営や累積欠損の計画的な解消のため





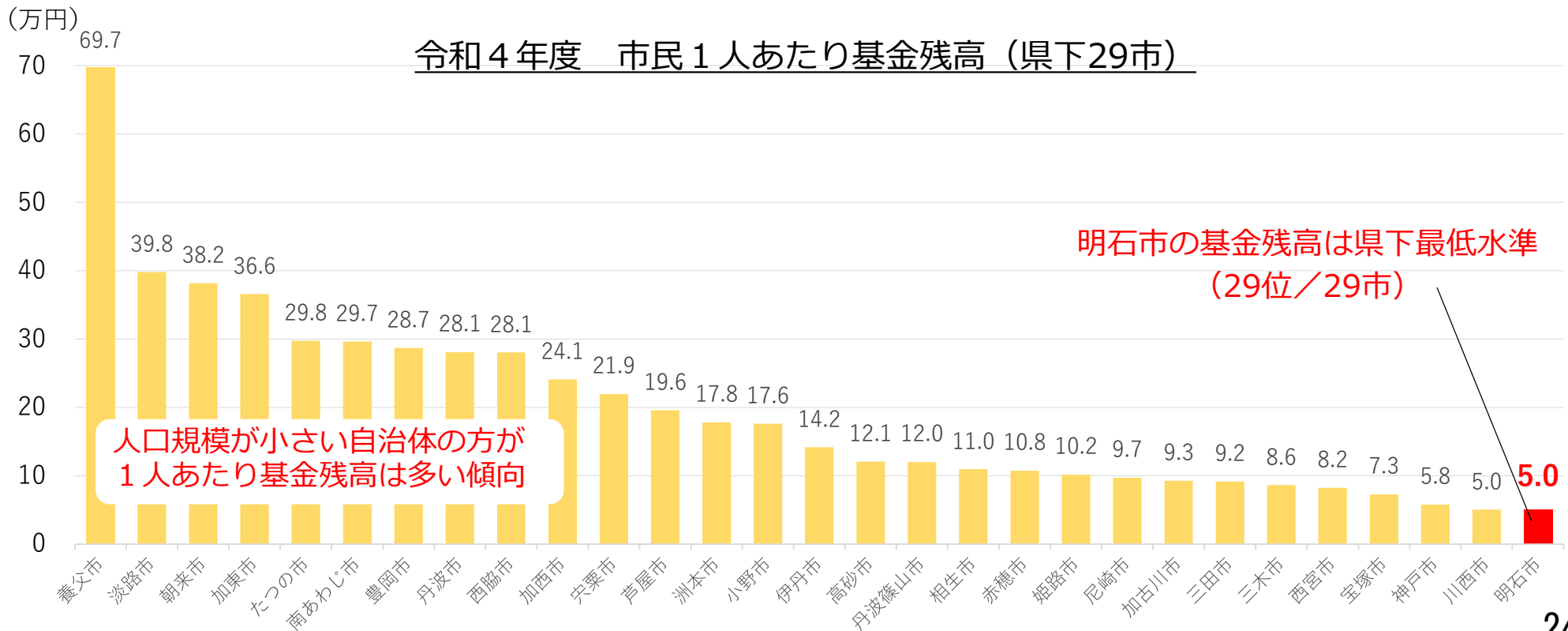
全基金残高の他市比較 (市民1人あたり)

令和4年度の基金残高を他市と比較してみましょう



グラフは、すべての基金残高を各市の人口で割った「市民1人あたりの基金残高」を多い方から順番に並べたものだよ。

市債残高と同じように、条件を合わせるために市民1人あたりで比較しているよ。



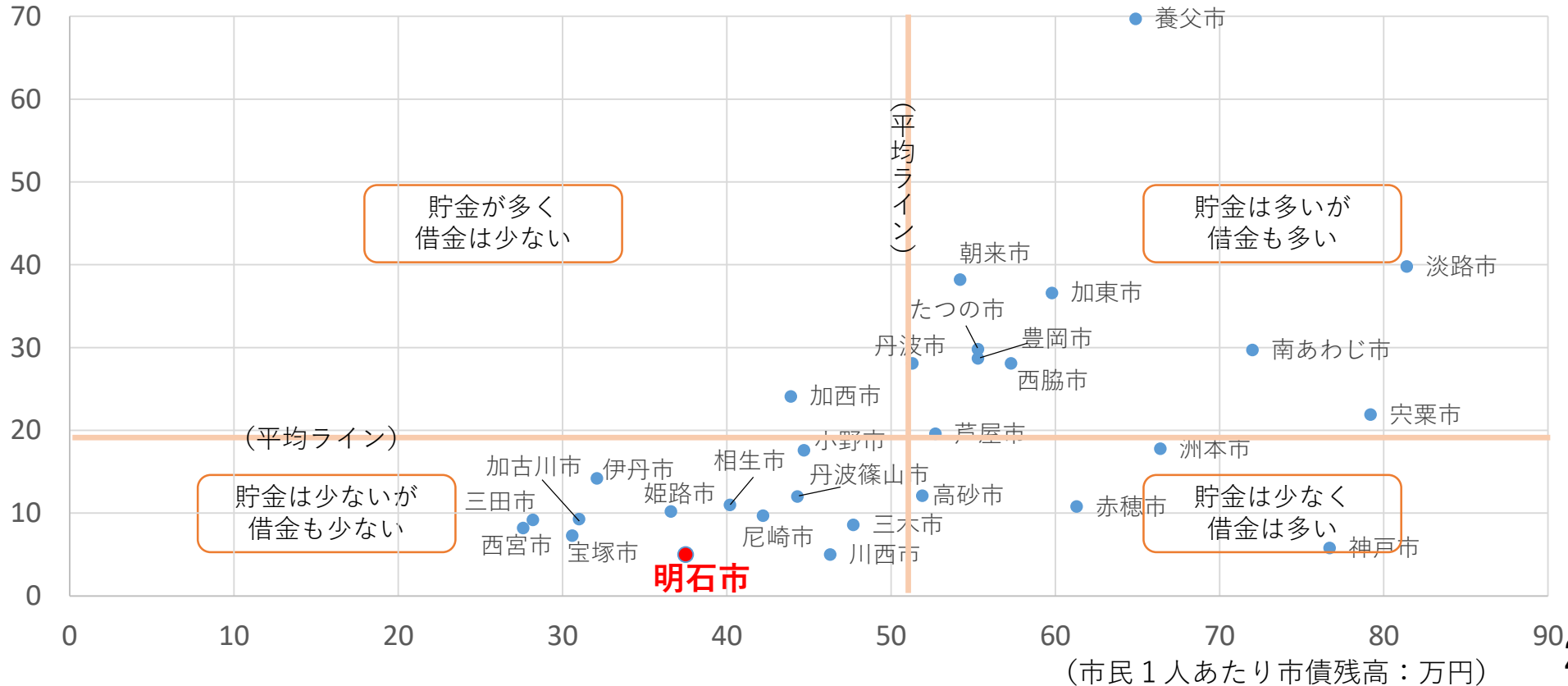
みんなのギモン 5

基金残高が少ないけど 市の財政は大丈夫なの？



基金残高と市債残高は、バランスがとっても大事なんだ。
借金が多いとその分利息も多く支払う必要があるの、このグラフでは見えない負担もあるんだ。
明石市は貯金は少ないけど、借金の負担も小さいね。

(市民1人あたり基金残高：万円)



6 財政指標 ～財政の健全度～

いろいろ聞いてきたけど、もう一つ聞いてもいい？
財政状況を数字で表すことってできるの？

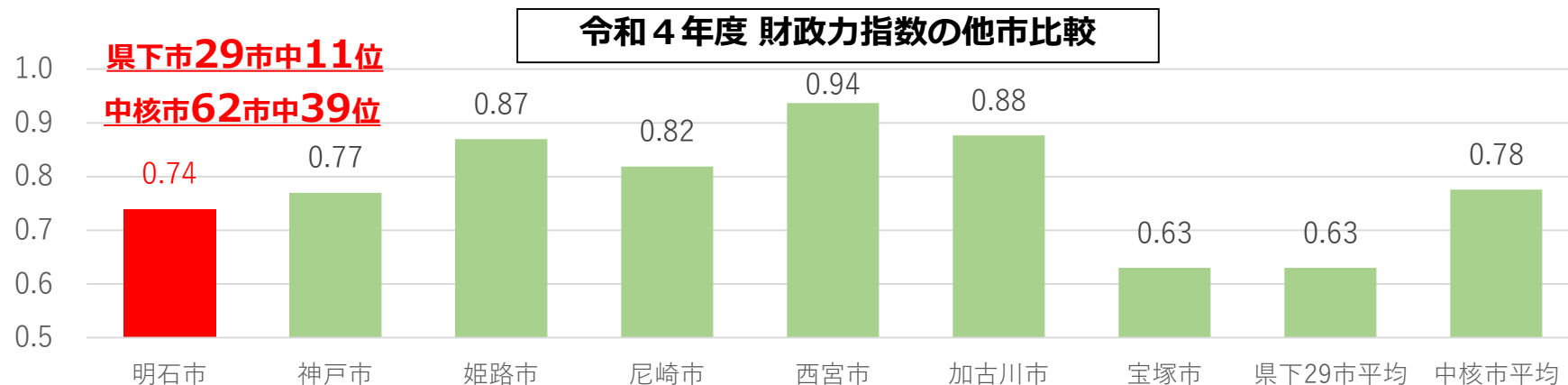
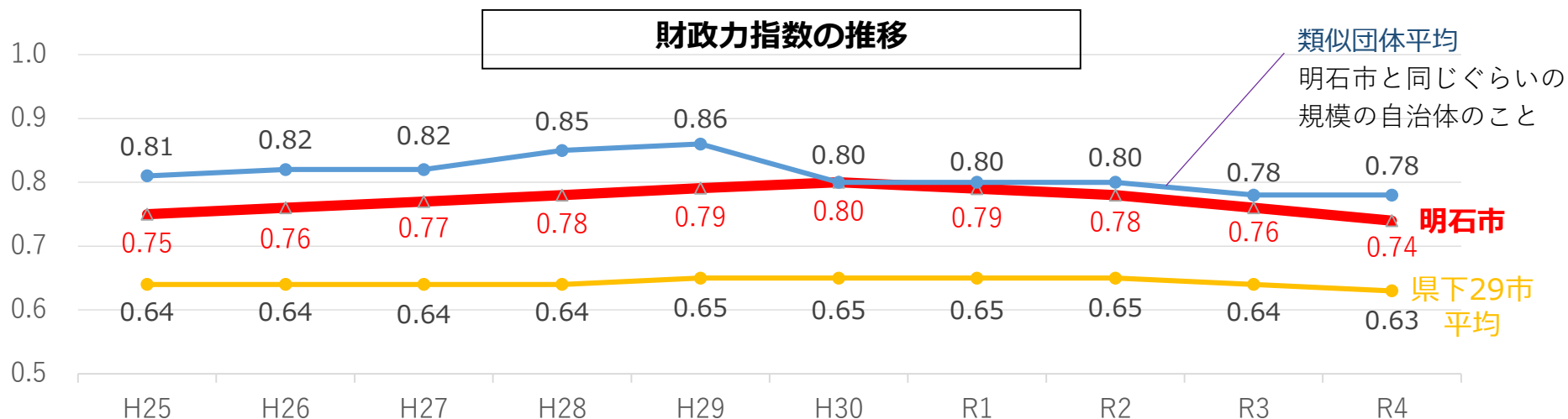


財政力指数

自治体の財政力を表す指標を見てみましょう



財政が健全かどうかを知るための指標があるよ。
代表的な3つの指標を他市と比べながら見てみようか。





実質公債費比率 将来負担比率

借金返済の負担と将来の負債の負担度合いを表す指標を見てみましょう



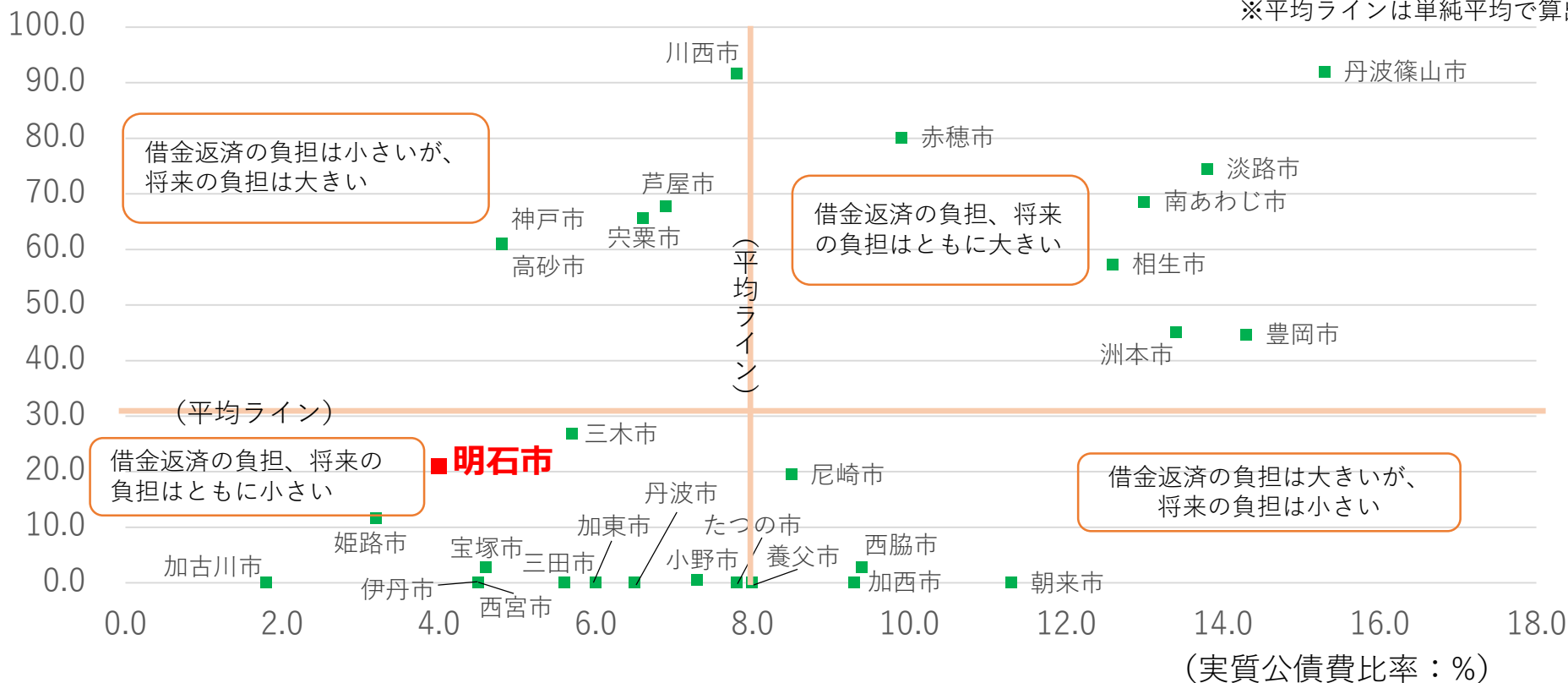
どちらの指標も財政の健全度を測るための指標だよ。
数値が高いほど負担が大きいことを示すから、小さいほど良いんだよ。

明石市は、借金返済の負担、将来の負担はともに小さいので現時点では問題ないけど、確か、市役所本庁舎やクリーンセンターの整備が今後あるんだよね。将来の負担も増えるだろうなあ。



(将来負担比率：%)

※平均ラインは単純平均で算出



7 公共施設の現状と抱える課題

明石市には公共施設がたくさんあるんだよね。どれくらいあるんだろう？



300以上の公共施設（ハコモノ）があるよ。
施設は年月が経つと老朽化していくから、維持していくにはすごくお金がかかるんだ。



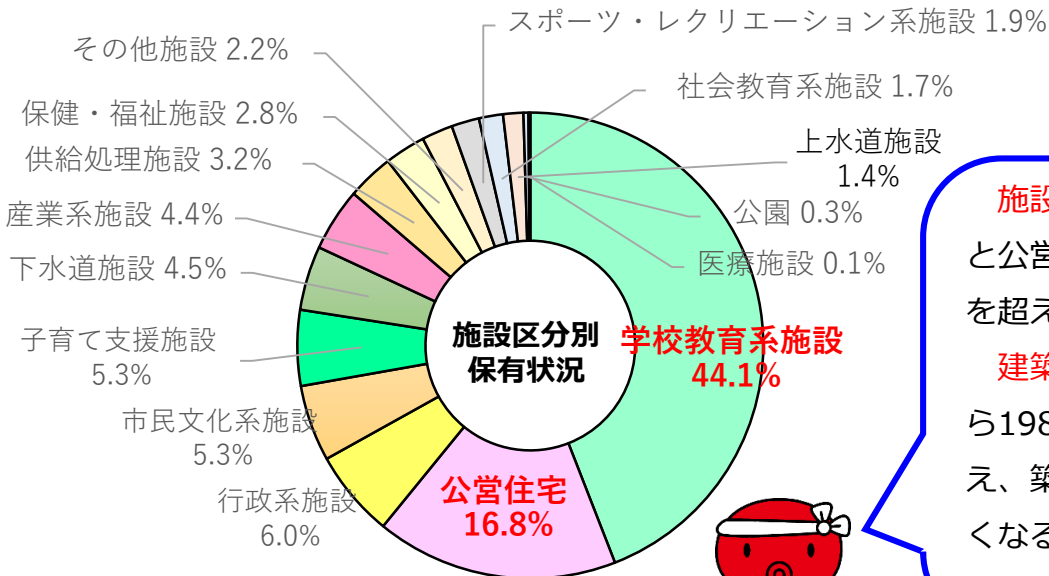
施設ってそんなにあるんだ！どれくらいのお金が必要か、想像もつかないや・・・

では、公共施設の現状と抱える課題を見ていこう。



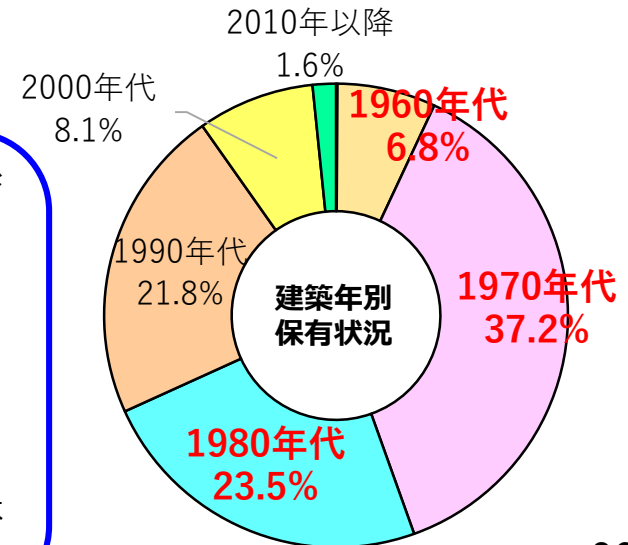
公共施設の状況（種類・建築年）

市が保有する公共施設の状況について知りましょう



施設区別では、学校教育系と公営住宅で、床面積の60%を超えているんだ。

建築年別では、1960年代から1980年代で全体の65%を超え、築50年を超える施設が多くなるから、施設の維持管理はしっかりと行う必要があるよ。





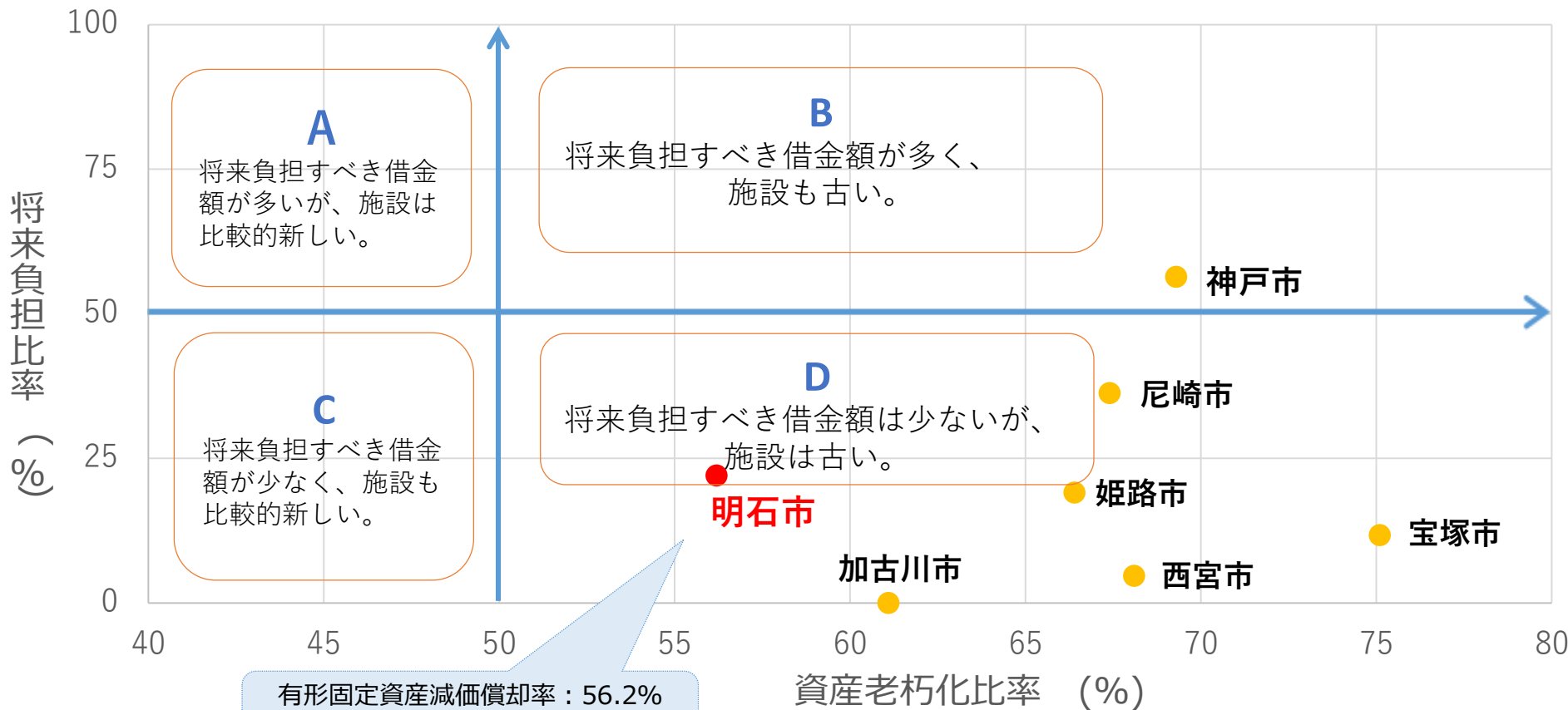
公共施設の老朽化 (他市比較)

資産の老朽化と将来の負担の度合いを確認し、
市が置かれている状況を把握しましょう

公共施設の老朽化の進行度を測る指標が資産
老朽化比率だよ。それと将来負担比率をあわせて、
他市と比較してみたよ。



明石市も他市と同じように、施設の老朽化が進
んでいるんだよ。



有形固定資産減価償却率 : 56.2%
将来負担比率 : 22.0%

みんなのギモン 6

古くなった公共施設は ちゃんと整備されるの？



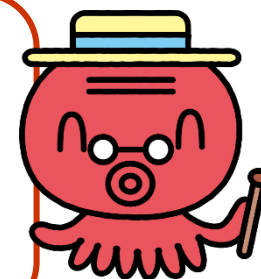
古い公共施設すべてを維持するにはすごくお金がかかるんだ。
そこで重要なのが「長寿命化」という考え方だよ。

公共施設の更新とは

老朽化した公共施設を取り替え、同じ程度の機能に再整備することじゃ。

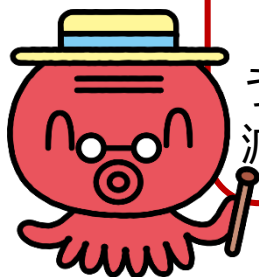
具体的には、大規模改修や施設の建替、インフラの取り替え等のことを言うのじゃ。

じいじたこ



長寿命化とは

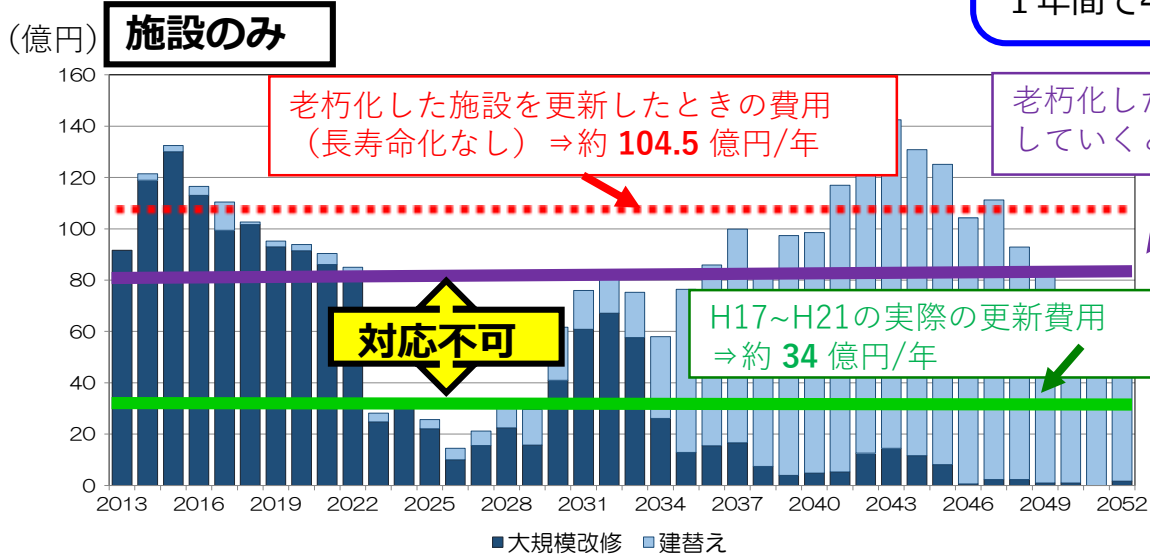
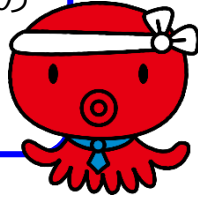
施設の劣化の状態を把握し、事前に予測した上で、計画的に適切な保全を行う「予防保全」を行うことで、施設の寿命を延ばす、これにより、財政負担を減らしたり、特定の年度に負担を集中させない効果があるのじゃ。





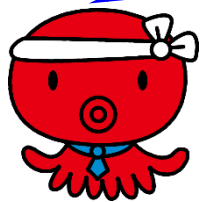
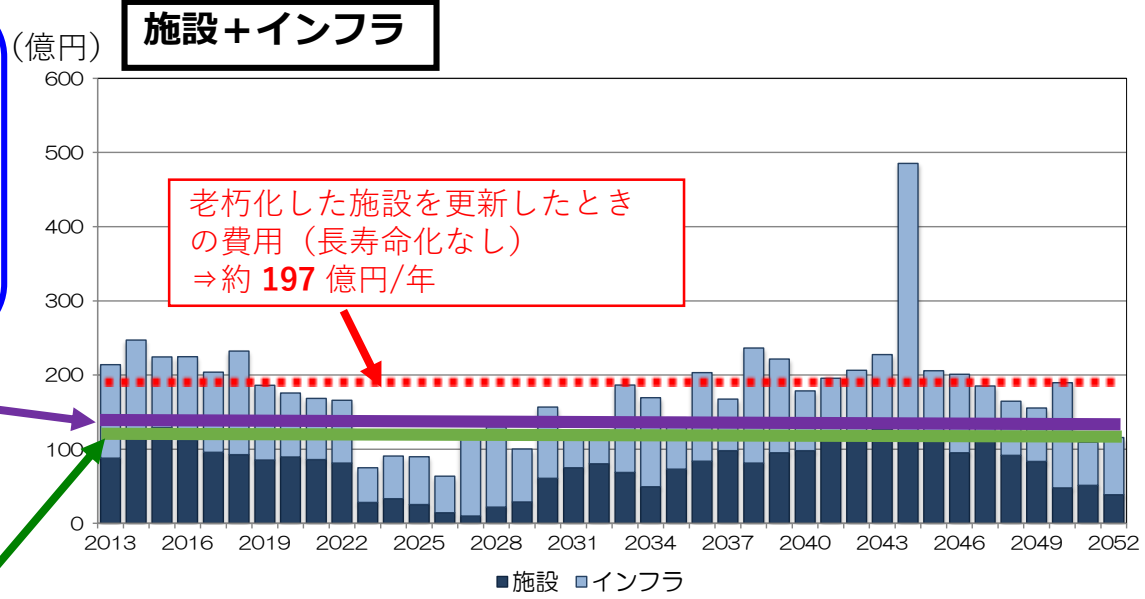
今後の公共施設の更新や長寿命化の費用

公共施設を維持していくために、どれくらいのお金がかかるかを試算してみたよ。
1年間で48.5億円もお金が足りないんだ。



今度は、道路などのインフラも加えて公共施設全体の更新費用を試算してみたよ。それでも1年間で約23億円もお金が足りないんだ。

2つのグラフは、機械的に試算し、実際の金額ではないけど、各公共施設の状況に合った、長寿命化対策などの維持管理は、今後さらに重要性が増すんだ。



老朽化した施設を長寿命化した上で更新していくときの費用 ⇒ 約 **153** 億円/年

約 **23** 億円の不足

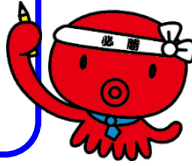
H17~H21の実際の更新費用 ⇒ 約 **130** 億円/年



今後の公共施設の検討方法

公共施設の課題に対応するため、今の公共施設の計画は、「施設総量の縮減」を目標にしているよ。

公共施設は、市民の暮らしを支える施設で、施設本来の設置目的以外にも様々な役割があるんだ。



【施設総量の縮減に対してはこんな反対意見も…】

愛着のある地元の施設がなくなるのは寂しい。

公共施設は人と人のつながりを創出できる場所。

地震など災害時の避難所としての役割はどうするのか？

利用者の少ない公共施設を活用した公民連携の新しい取組はできないのか？

明石市は「小学校区単位のまちづくり」をこれまで進めてきたんじゃ。公共施設の果たすべき役割を今一度見直したうえ、多角的な視点で今後の公共施設配置適正化の方針を検討していく必要があるんじゃ。



R7に公共施設配置適正化計画を改定し、新たな方針を検討していきます

公共施設配置適正化計画

市民が求める行政サービスは何か。

市民が安心して住みたい、住み続けたいと思うまちの実現に向けて、公共施設の果たすべき役割は何か。

① 財政・公共施設のデータ

- ・ 今後の収支見込み
- ・ 施設の老朽度合い
- ・ 施設の更新に要する費用

② 社会的要因

- ・ 少子高齢化
- ・ 人口減少
- ・ 新たな価値観、多様性

③ 配置適正化の取組手法

- ・ 長寿命化
- ・ 施設の廃止、複合化等
- ・ 産官学連携

8 これまでの財政状況と今後の財政収支見込み



これまでの取組



10年以上前は、人口が減り始め、少子高齢化の影響もあり、市の貯金が減って、厳しい財政の運営だったと聞いたことがあるけど、明石市は、何か取り組みをしてきたの？

財政健全化の計画(H26～R5)を作り、財政運営が厳しさを増す中でも、諦めずに歳入と歳出を均衡させる取組をしてきたんだよ。どんな取組をして、どれだけの効果があったのか見ていこう。



目標	実績
10年間の収支均衡 10年後の3基金残高70億円を確保	3基金残高：119億円

主な取組項目	10年間（H26～R5）の取組結果
人件費の削減	・ 正規の人件費:H25 222億円 ⇒ R6 209億円 (うち手当の見直し累計△64億円)
土地等の売却・貸付	・ JT跡地(土地取得費除く)、あかねが丘学園など 59億円 土地等貸付 8.2億円
公共施設のLED化	・ 道路・公園△0.7億円/年、教育△0.8億円/年、本庁舎を除く公共施設 △1億円/年
電力・ガス料金削減	・ 複数施設の電気・ガスを一括して入札△8億円
その他	・ 民間への委託の推進、公共施設の配置の見直し、公共施設の一括した維持管理 など

H26～R5 の収支状況（実績）

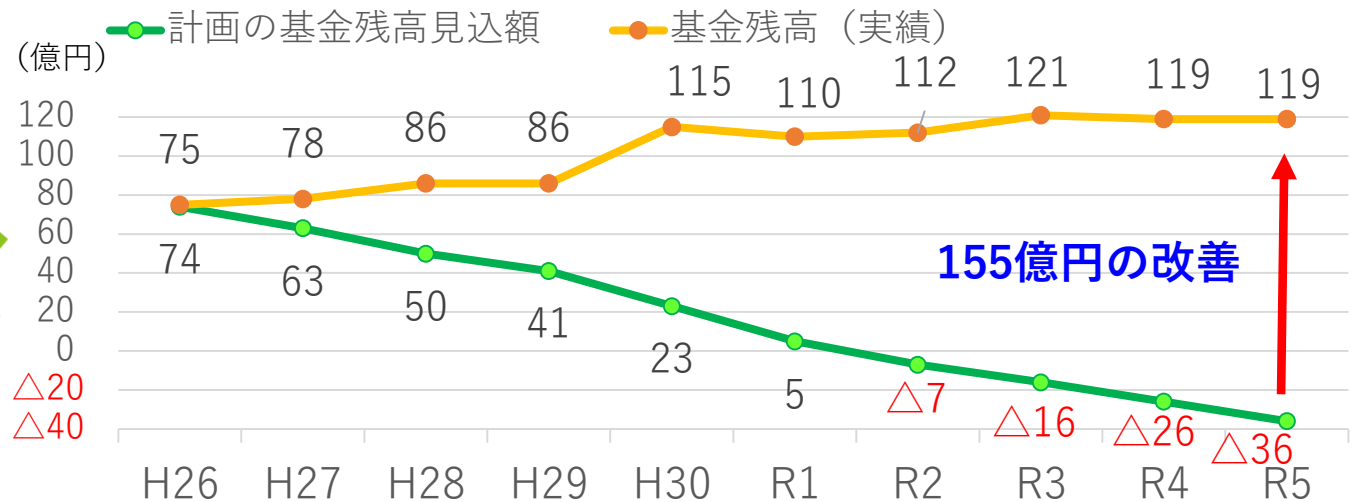
（単位：億円）

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
歳入合計(1)	624	636	642	640	722	673	697	753	747	752
市税(市で集める税金)	406	405	416	414	426	440	436	437	447	462
地方交付税(国からの交付金)	148	145	138	131	149	147	152	196	179	180
その他	70	86	88	95	147	86	109	120	121	110
歳出合計(2)	613	615	629	639	721	677	680	741	748	756
人件費	175	176	175	176	176	176	183	183	185	182
扶助費(生活保護など給付費)	75	75	81	85	89	93	94	98	102	110
子育て関連経費	11	11	15	21	22	23	25	32	34	42
公債費(借金の支払い)	107	99	101	99	102	106	108	115	115	116
投資的経費(公共施設の整備)	18	19	12	9	44	7	8	18	13	10
繰出金(他の会計への支出)	113	116	120	123	125	126	123	125	128	129
その他	114	119	125	126	163	146	139	170	171	167
収支差引額(1)-(2)	11	21	13	1	1	△4	17	12	△1	△4
基金取崩額	5	0	0	5	5	8	0	0	8	4
基金残高(実績)(3)	75	78	86	86	115	110	112	121	119	119
計画での基金残高見込み(4)	74	63	50	41	23	5	△7	△16	△26	△36
実績と計画との差(3)-(4)	1	15	36	45	92	105	119	137	145	155

計画時点では、基金残高は底をつく見込みだったけど、いろいろな取組により、R5の基金残高は119億円と155億円改善したんだね。

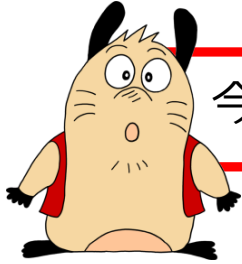


市税や地方交付税などの歳入が増えたことにより、子育て支援などの取組に対する財源ができたことや、財政健全化の取組により基金は増加したんだよ。





明石市の人口のこれまでと今後の推計



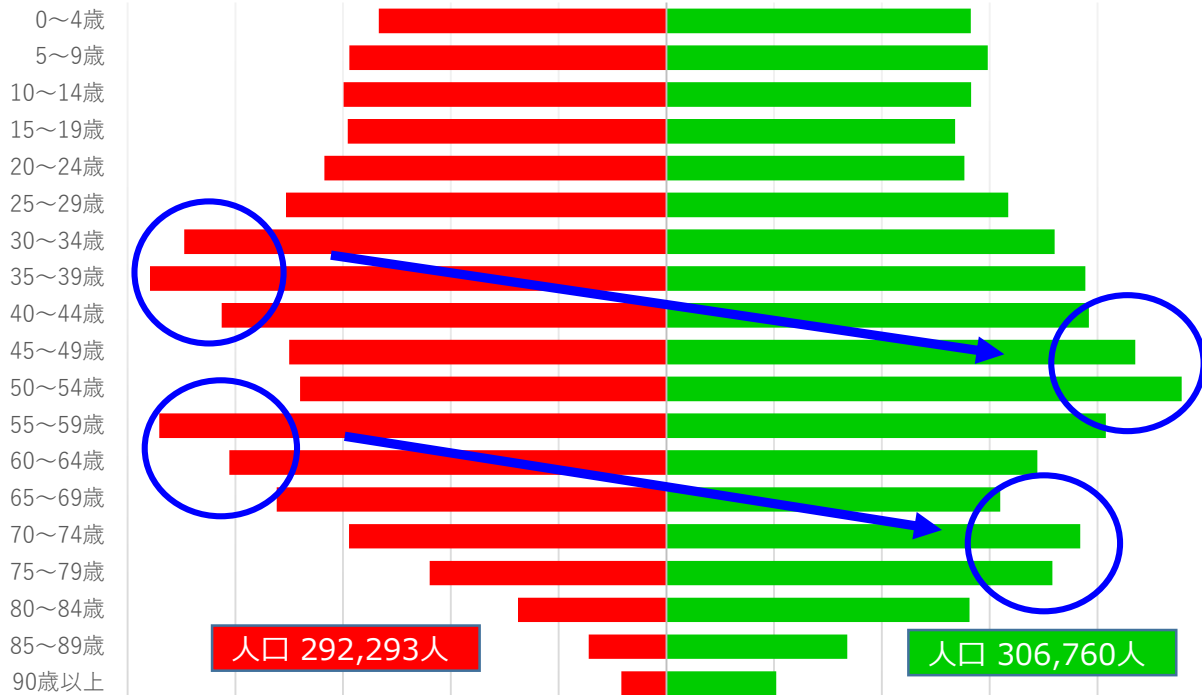
今後どの自治体でも人口が減少するって聞いたけど、明石市はどうかの？

では、これまでの明石市の人口について見ていこう。
明石市は人口が11年連続で増えているけど、人口の年齢構成は高くなっていることが分かるでしょ。



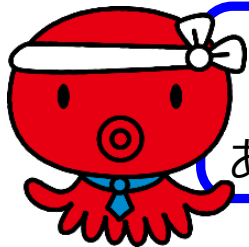
■ H20.1.1 ■ R6.1.1

25,000 20,000 15,000 10,000 5,000 0 5,000 10,000 15,000 20,000 25,000 (人)



11年連続人口増加 H25~R5平均 928人/年増加

年	人口増減数	自然動態			社会動態		
		出生-死亡			転出-転入		
		合計	男	女	合計	男	女
R5	1,356	△554	△303	△251	1,910	944	966
R4	555	△745	△396	△349	1,300	531	769
R3	521	△323	△228	△95	844	219	625
R2	429	△323	△215	△108	752	308	444
R1	822	△295	△165	△130	1,117	599	518
H30	1,946	△53	△14	△39	1,999	1,090	909
H29	2,380	△34	△54	20	2,414	1,166	1,248
H28	747	6	△81	87	741	359	382
H27	496	△57	△107	50	553	230	323
H26	505	2	△40	42	503	143	360
H25	456	29	△65	94	427	191	236
H24	△256	204	76	128	△460	△108	△352
H23	△288	127	△3	130	△415	△265	△150
H22	△344	174	△13	187	△518	△434	△84
H21	828	364	156	208	464	251	213
H20	367	419	149	270	△52	△55	3

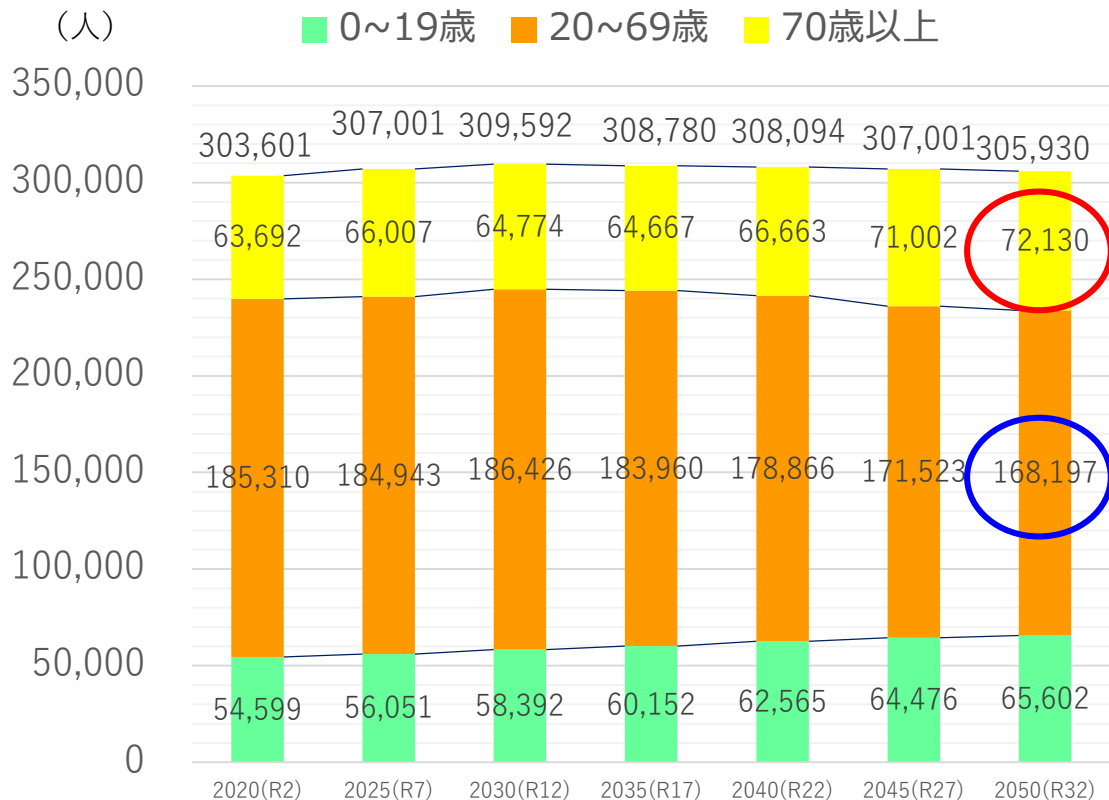


さらに今後の人口の見込みについても見ていこう。
 今後の人口の見込みには、明石市が作ったものと、国が作ったものがあるんだ。それを比べてみることにしよう。

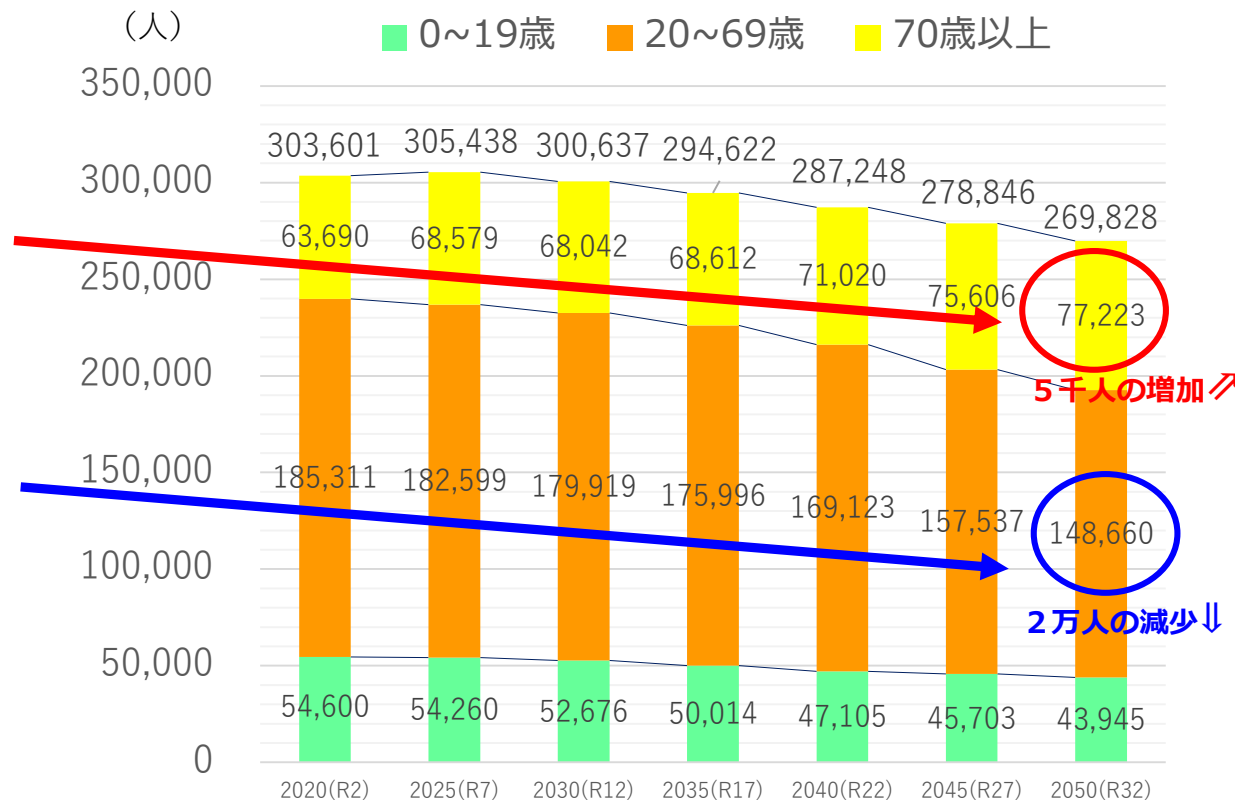
市と国のそれぞれ人口の見込みにも、特徴があるなあ。
 国の方が、人口が減っているのに、70歳以上の人口が増加し、20～69歳までの働く人が減るのか。



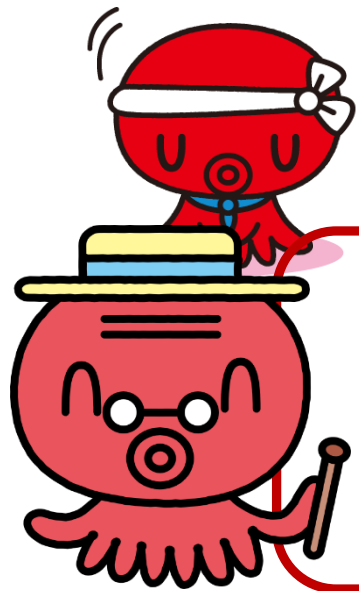
① 市の人口推計



② 国の人口推計 (明石市)

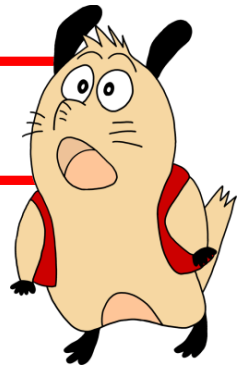


※ 2020(R2)は、いずれも10/1国勢調査人口



うんうん

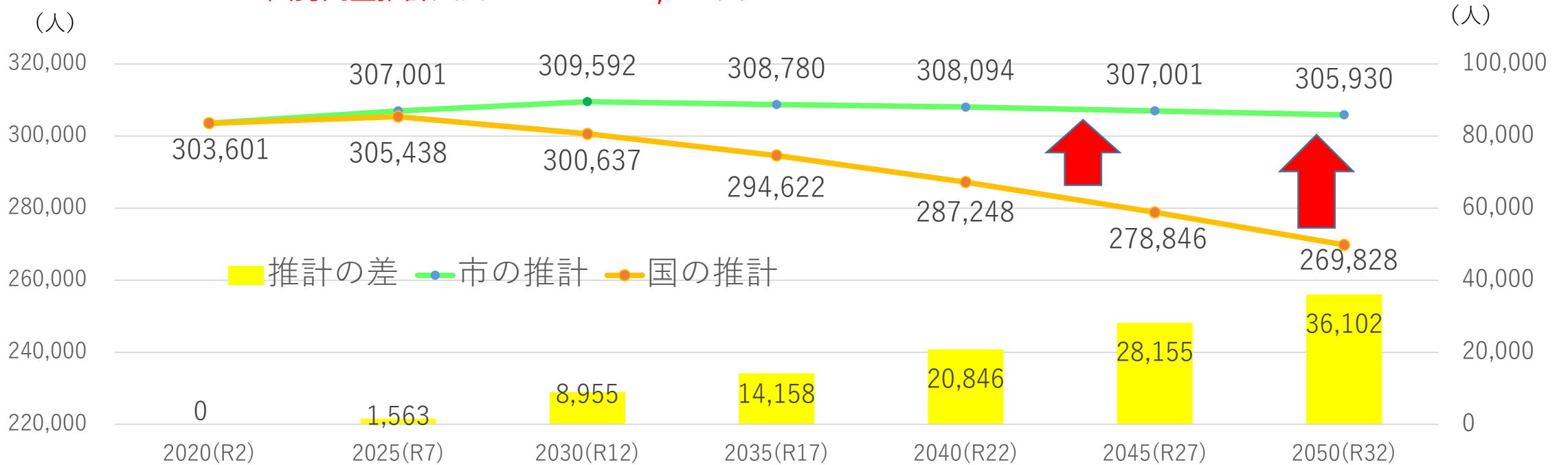
人口が国の推計と同じように減少したら大変じゃないの？



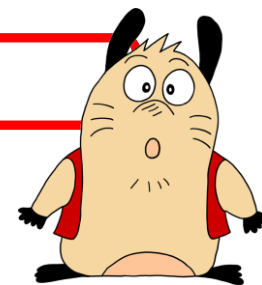
よく気付いたのう。自治体の人口減少は今大きな問題になっているんじゃ。人口の大幅な減少は、働き手や地域活動の担い手の減少となり、地域経済の停滞を招くおそれがあるんじゃ。そうならないためにも、人口を維持し将来にわたって持続可能なまちであることが重要なんじゃ。

そのためにも、市のSDG s 推進計画の取組により、今後も、人口減少をできる限り緩やかにして、人口構造を安定化することが必要なんじゃ。

国勢調査推計人口：R6.6 306,294人



人口が減少した場合、どれくらい財政に影響があるのかなあ。



なら、市と国の人口推計によって、今後の財政にどのような影響があるのかを見ていくことにしよう。

市と国の2つの今後の財政収支見込みを見積もるにあたっては、共通項目があるので、主なものを見ていこう。

歳入項目	推計方法
1 市税 (市民税や固定資産税、都市計画税などの税金)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民税(個人・法人)：国の名目経済成長率により試算 前年度の見込額(個人市民税・法人市民税)×名目経済成長率 【R7:1.7% R8:1.0% R9:0.9% R10:0.8% R11~R14:0.7% R15:0.6%】 ・固定資産税：評価替え(3年に1度(R9,R12,R15)土地や家屋の評価を適正な価格に評価し直すもの)を反映 ・事業所税：人口30万人以上が見込まれるため、同額で試算
2 地方交付税 (国から配分される税金)	<ul style="list-style-type: none"> ・普通交付税：市税や、扶助費、繰出金の法定経費、公債費による増減分を考慮

歳出項目	推計方法
1 人件費 (職員の給与や議員報酬等)	<ul style="list-style-type: none"> ・正規職員、再任用職員、任期付・会計年度任用職員等の人件費 一人当たり人件費に人数を掛け合わせ、さらに給与改定等の影響額を考慮 ・退職手当：60歳定年年齢の65歳までの引き上げ(2年に1歳の段階的引き上げ) 定年退職金がある年とない年を繰り返す(定年退職金がない年：R7・R9・R11・R13)
2 扶助費 (生活保護への給付等の経費)	<ul style="list-style-type: none"> ・過去5年間の平均から毎年4億円の増加
3 子育て関連経費	<ul style="list-style-type: none"> ・①医療費16億円 ②保育料(第2子)6億円 ③給食(中学・幼稚園等)8億円 ④おむつ1億円 ⑤児童手当の高校生拡充分(1人5千円)(市単独 R6のみ) など

今後の財政への影響を見込むことは難しいことなんだ！
勉強しよう



歳出項目	推計方法
4 公債費 (借金の支払い)	<ul style="list-style-type: none"> ・新ごみ処理施設：R8～R12 総額420億円（うち市債254億円） 公債費：年最大14億円 ・市役所新庁舎：R6～R10 総額170億円（うち市債154億円） 公債費：年最大8億円 ・消防新中崎分庁舎：R5～R7 総額14億円（全額市債） 公債費：年最大1億円 ・その他の公共施設の財源として、市債を毎年50億円借り入れた場合で見積り

今後、市役所やクリーンセンターの整備などにすごいお金がかかるんだ。借金残高はR12にピークを迎えるけど、市の財政は大丈夫なのかな。



上記の公債費の条件で市債の借入を行った場合の市債残高

年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	備考
市債(借金)残高	1,119	1,133	1,192	1,172	1,172	1,244	1,304	1,264	1,222	1,183	
臨時財政対策債	(452)	(419)	(386)	(353)	(321)	(290)	(260)	(233)	(208)	(186)	毎年8億円の借入で見積り
その他	(667)	(714)	(806)	(819)	(851)	(954)	(1,044)	(1,031)	(1,014)	(997)	

歳出項目	推計方法
5 投資的経費 (学校などの公共施設の改修等の経費)	<ul style="list-style-type: none"> ・市債発行の抑制：人件費の定年年齢の段階的引き上げに伴い定年退職金の支給がない年度（R7・R9・R11・R13）は、一般財源の平準化のため、退職手当と投資的経費のトータルは同額
6 繰出金 (他の会計への支出)	<ul style="list-style-type: none"> ・特別会計、企業会計、市民病院への繰出金（介護保険と後期高齢者医療で、過去5年間の平均から毎年2億円の増加）
7 その他の経費 (委託料や消耗品費、施設の維持などの経費)	<ul style="list-style-type: none"> ・物件費や維持補修費、補助費等の経費 ・図書館管理運営経費：二見(R6～)・西明石(R8～見込) 計2億円 ・新ごみ処理施設基金(貯金)への積立 R6～R10：21億円の積立
8 方針等が未確定の投資的事業	<ul style="list-style-type: none"> ・市民病院:建物や設備で300億円と想定した場合(スケジュール等が決まり次第、反映) 市負担150億円 30年借入:5億円/年の公債費(うち2.5億円は歳入(地方交付税)で受入見込み) ・卸売市場:具体的な方向性が決まり次第、必要に応じて収支見込みに反映する ・小中学校、幼稚園、保育所等の公共施設については、R7の公共施設配置適正化計画の改定において、公共施設のあり方や配置適正の進め方を検討する

今後、老朽化した施設の整備にかなりのお金がかかることは分かったよ！まだ、今後の方針が決まっていない事業も決まり次第、今後の財政見込みに反映しないといけないね！



市の人口推計に基づく今後の財政収支見込み

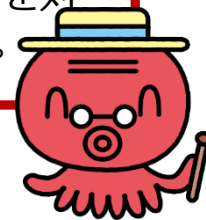
(単位：億円)

年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
歳入合計(1)	737	744	759	766	767	774	778	783	789	787
市税	451	470	474	475	478	482	483	485	489	488
地方交付税	168	169	176	180	183	185	187	193	195	194
うち国勢調査人口分			(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(7)	(7)	(7)
その他	118	105	109	111	106	107	108	105	105	105
歳出合計(2)	742	740	753	765	765	771	779	785	797	796
人件費	199	189	201	191	201	191	202	191	204	200
扶助費	110	114	118	122	126	130	134	138	142	146
子育て関連経費	37	34	34	34	34	34	34	34	34	34
公債費	103	98	102	107	110	111	113	115	120	117
臨時財政対策債	(42)	(42)	(42)	(42)	(41)	(40)	(39)	(36)	(35)	(31)
新ごみ	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(1)	(4)	(10)	(14)	(14)
庁舎・中崎	(0)	(0)	(1)	(5)	(8)	(9)	(9)	(9)	(9)	(9)
その他	(61)	(56)	(59)	(60)	(60)	(61)	(61)	(60)	(62)	(63)
投資的経費	9	19	8	19	9	19	8	19	9	9
繰出金	129	130	132	131	133	134	136	138	140	142
その他	155	156	158	161	152	152	152	150	148	148
収支差引額(1)-(2)	△ 5	4	6	1	2	3	△ 1	△ 2	△ 8	△ 9
3基金取崩見込額	5	0	0	0	0	0	1	2	8	9
3基金残高見込額	114	114	116	119	119	120	120	118	110	101

では、実際に今後の財政収支見込みを見ていこう。

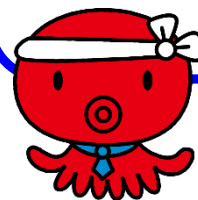
市と国の財政収支見込みでは、緑色の国勢調査人口分に違いがあるんじゃない。

国勢調査は、5年に1度、人口や世帯を対象とする国の最も重要な調査なんじゃ。

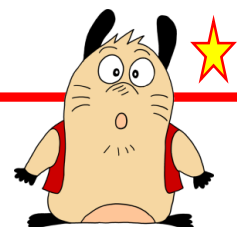


地方交付税（国から配分される税金）は、その国勢調査の人口などを使い、交付する額を決めているんだよ。

過去の国勢調査の実績値として、人口一人あたり10万円が、地方交付税として交付されているんだ。



人口を維持することは重要なんだね。人口の増減が、国から交付される地方交付税に大きな影響があるのか。



国の人口推計に基づく今後の財政収支見込み

(単位：億円)

年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
歳入合計(1)	737	744	757	762	764	770	773	774	780	778
市税	451	470	474	475	478	482	483	485	489	488
地方交付税	168	169	174	178	181	183	185	184	186	185
地方交付税	(160)	(161)	(164)	(168)	(171)	(173)	(175)	(178)	(180)	(179)
うち国勢調査人口分			(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(△2)	(△2)	(△2)
臨時財政対策債	(8)	(8)	(8)	(8)	(8)	(8)	(8)	(8)	(8)	(8)
その他	118	105	109	109	105	105	105	105	105	105
歳出合計(2)	742	740	753	764	765	770	778	785	797	796
人件費	199	189	201	191	201	191	202	191	204	200
扶助費	110	114	118	122	126	130	134	138	142	146
子育て関連経費	37	34	34	34	34	34	34	34	34	34
公債費	103	98	102	107	110	111	113	115	120	117
臨時財政対策債	(42)	(42)	(42)	(42)	(41)	(40)	(39)	(36)	(35)	(31)
新ごみ	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(1)	(4)	(10)	(14)	(14)
庁舎・中崎	(0)	(0)	(1)	(5)	(8)	(9)	(9)	(9)	(9)	(9)
その他	(61)	(56)	(59)	(60)	(60)	(61)	(61)	(60)	(62)	(63)
投資的経費	9	19	8	19	9	19	8	19	9	9
繰出金	129	130	132	131	133	134	136	138	140	142
その他	155	156	158	160	152	151	151	150	148	148
収支差引額(1)-(2)	△5	4	4	△2	△1	0	△5	△11	△17	△18
3基金取崩見込額	5	0	0	2	1	0	5	11	17	18
3基金残高見込額	114	114	116	116	115	115	110	99	82	64

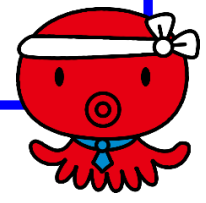


市の人口推計では、R15くらいまでは、人口の増加により、地方交付税が毎年4億円～7億円増え、逆に、**国の推計**では、2億円の増加からマイナス2億円となっているよ。
R15には、**国の推計**は、**市**より9,000人少なくなり、9億円の差が出る見込みなんだ。

よく見てほしいのが、2つの表の右下、3基金残高見込額で、**国**の推計では、R13までは99億円あるけれど、R15には64億円と、**市**よりも37億円低い見込みとなるんじゃ。



今後も、基金残高を確保していくためには、歳入の確保や、優先順位をつけ実施する事業の選択など、歳入と歳出の収支を均衡させ、さらに将来の市民への負担を軽減できるよう持続可能な財政運営を行う必要があるんだよ。

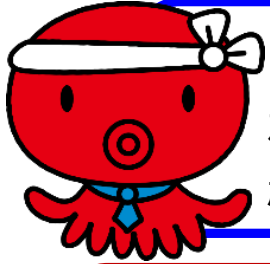


今後も「選ばれるまち」としての重点的な取組の継続をはじめ、SDGs推進計画に沿った施策をしっかりと実施し、将来にわたり誰もが住みたい住み続けたいまちを目指した取組による市民サービスの向上が必要となるんじゃ。



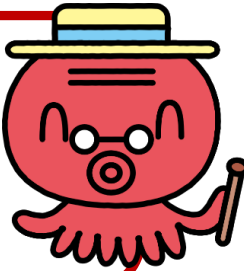


財政運営上の課題



今後も、少子高齢化等の進展により、医療や介護、各種の支援などの社会保障経費の増加が見込まれているんだ。多くの事業は、国の補助金等をもって実施しており、すぐに市の財政の持続性が問題とはならないけど、毎年の歳入と歳出の収支の状況をしっかり見ておく必要があるんだよ。

さらに今後、庁舎やクリーンセンター等の整備のために、多くの借金をする必要があるんじゃない。その借入に対する公債費(借金の支払い)は徐々に増加し、令和14年度にピークを迎えるんじゃない。この数年間は公債費の支払いが、比較的少ない時期なので、減債基金(借金の支払いが多い時に使う貯金)などの基金を積み立て、必要時に使えるよう備える必要があるんじゃない。



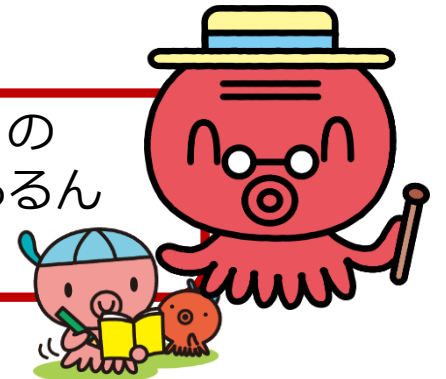
今は人口が増加している明石市だけど、将来的には人口の減少が見込まれるんだよね。国の人口推計のように人口が減少し、基金(貯金)が大きく減ってしまうのは問題なんだね。



(今後の財政収支見込み 公債費 再掲) (単位：億円)

年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
公債費(借金の支払い)	103	98	102	107	110	111	113	115	120	117
臨時財政対策債	(42)	(42)	(42)	(42)	(41)	(40)	(39)	(36)	(35)	(31)
新ごみ	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(1)	(4)	(10)	(14)	(14)
庁舎・中崎	(0)	(0)	(1)	(5)	(8)	(9)	(9)	(9)	(9)	(9)
その他	(61)	(56)	(59)	(60)	(60)	(61)	(61)	(60)	(62)	(63)

そうじゃない。今後はさらに、庁舎等の整備など古くなった公共施設の改修に多くのお金がいるので、それに備えるためにも、今後の目標や、取組を決めておく必要があるんじゃない。では、さっそく今後の財政運営上の目標についても、一緒に見ていこうか！





今後の財政運営上の目標



今後の財政運営上の目標については、財政健全化の計画（10年間：H26～R5）と同様に、期間は「10年間（R6～R15）」としているんだ。

目標の設定

① **財政基金**（歳入と歳出の収支が合わない時に取り崩す貯金）
の残高70億円以上の確保

東日本大震災や熊本地震など、災害を通じて、国の補助金など災害時の自治体への支援制度を作ってきましたが、災害発生時には一時的に多額のお金が必要となります。

- ・熊本地震では、各自治体の災害対応に必要な財政基金が、1年間の収入（標準財政規模）の10%程度であったことや、国が適正としている10%から20%を目途に基金残高を確保する必要があります。
- ・少なくとも財政基金残高が70億円（標準財政規模の10%）を割り込むことがないように財政運営を行っていきます。

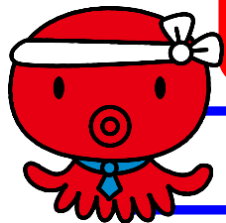
$$\left[\begin{array}{l} (1年間の収入)標準的な状態で通常 \\ 収入されると想定されるお金 \end{array} \right] \times \frac{\text{財政基金 (70億円)}}{\text{標準財政規模 (660億円:R4決算)}} = 10.6\%$$

② **3基金残高の合計を概ね100億円の確保**

上記、災害対応に加え、新たな財政需要や市税収入の減少などに伴う年度間の歳入と歳出の不足に対応するため、10年後における財政基金を含めた3基金残高の合計を概ね100億円程度の確保を目指します。

10年間の財政運営上の目標を立て、それに向けて取り組むことが、持続性のある財政運営には必要であることが分かったよ。でも、その目標を達成するには、何か取組が必要じゃないの？

その通りだよ。次は具体的な目標達成のための3つの取組方針を見ていこう！





目標達成のための今後の取組方針

「財政健全化※」から「**健全な財政運営**」へ（※財政健全化の取組例：収支改善のため、給付金など歳出を減らすような取組）

- ・これまでの「財政健全化」の視点も踏まえつつ、財政規律を保った「健全な財政運営」を行うため**取組方針**を定め、将来にわたり持続可能な財政構造を構築していきます。
- ・具体的な取組は、社会情勢の急激な変化に合わせて、スピード感を持って立案し、実行していく必要があり、健全な財政運営の行うための考え方や主な取組事例をまとめています。

(1) 未来志向の対話と共創

社会情勢の変化に即応し、行政課題に的確に対応していくためには、前例踏襲ではなく、未来志向で、挑戦する行政へと変化する必要があり、職員が創意工夫を重ね、直面する行政課題に果敢に挑戦する組織づくりを進めます。

(2) まちづくりを支える歳入の確保

持続可能な財政基盤を構築するため、市税や公有財産の有効活用などにより財源を確保し、市民サービスの向上につながる取組を進めます。

(3) 将来を見据えた持続可能な財政構造の確立

公共施設の配置適正化をはじめ、市債の適切な活用などにより、将来を見据えた過度な将来負担とならない持続可能な財政運営を進めます。

目標を達成するため、大きく3本の柱で取組を進めるってことなんだよ。

また、取組内容は、時代の流れに応じて、スピード感をもって新たな取組を進めることも重要なことなんだ！





3つの取組方針の主な取組内容

未来志向の対話と共創は、新たな取組だね。
持続可能な財政運営を確立するための一歩となるといいな！



(1) 未来志向の対話と共創

① 多様な主体との連携

- ・民間企業からの提案など産官学共創による課題解決を図る取組を推進
- ・広域等連携強化による県や近隣自治体とのスケールメリット（選択肢増、ターゲット層、発信力の強化）を活かせる業務の推進

② 「選ばれるまち」を目指した未来に向けた枠組みの構築

- ・未来に向けて好循環を生み出す施策への重点化
限られた財源を把握した上で、地域経済の発展や、未来に向けた好循環を生み出す施策への重点的な投資や、ハード・ソフトの両面で、将来的に財政効果が期待できる施策に取り組む枠組みの構築など

③ 挑戦できる体制づくり（ボトムアップ意識の醸成）

- ・新たな発想を持ち積極果敢に挑戦する職員の育成と、これを後押しする風土の醸成や体制の整備

(2) まちづくりを支える歳入の確保

① 市税収入等の確保

- ・今後も「選ばれるまち」であり続けるための施策の推進人口を維持するだけでなく今後も増加していくための取組や、明石の魅力を積極的にPRしていくことで、多くの人から選ばれ続けるまちづくりの推進を図る。
- ・市税徴収率の向上
滞納を未然防止するための期限内納付の推進や、滞納整理による税収の確保

② 未活用地の売却・普通財産の貸付など公有財産の有効活用

③ 多様な手法による自主財源の確保

- ・広告料収入の拡大（市有施設など）
- ・ふるさと納税、企業版ふるさと納税など寄附金のさらなる獲得
- ・基金の運用の拡大
保有現金の状況に留意しつつ、資金の安全かつ有利な運用を図る

(3) 将来を見据えた持続可能な財政構造の確立

① 公共施設の配置適正化

- ・公共施設配置適正化計画の改定（R7～）に基づく将来負担の低減
施設の有効活用(廃止、転用、複合化、集約化)や、計画的な施設の改修による長寿命化、ライフサイクルコストの縮減

② 公共施設の整備における民間の資金・経営能力や技術の活用

③ 財政負担の平準化など中長期の視点による財政運営

- ・計画的な市債の借入や基金の活用
財政負担の平準化のため減債基金の積立など中長期の視点による財政運営の確立

④ デジタル技術の活用等による歳出削減や、事務事業のスクラップ・アンド・ビルドの徹底

- ・自治体DXの推進による時間外勤務の削減など歳出削減や、優先順位を踏まえたスクラップ・アンド・ビルドの徹底



フォローアップ

(目標達成に向けたフォローアップ)

- ・今後の収支見込みにおける財源不足の対応については、予算編成段階における歳出削減や、予算執行段階における職員の創意工夫による節減をはじめ、新たな財源確保策などに取り組み、基金残高を確保していく必要があります。そのため以下の進め方により、今後の財政運営に対する取組を進めていきます。

① 収支見込みを毎年度公表

今後の収支見込みについては、社会情勢や国・県の動向などにより変動するため、毎年度作成し、2月下旬の当初予算案を市議会へ上程する際の予算資料とあわせ公表し、財政上の課題の見える化や、財政運営上の健全性を担保することとします。

② 財政状況に応じた取組の見直し

目標に対して、今後の収支見込みの基金残高が大きく下回ることがあれば、財政健全化の取組など、新たな取組方針を設定することとします。

③ 目標や取組方針の検証

取組方針の見直しが必要な場合や期間終了後に、目標や取組方針の検証を行い、次の財政運営の指針となる新たな目標などを設定することとします。

毎年度の収支見込みの公表は、市民のみんなにとって、今後の市の財政状況をしっかり把握していく上では重要なんだね。

市の財政情報をいろいろ学ぶことができたし、今後もしっかりチェックしていくよ。

市の財政状況は、すべての市民が知っておくべき情報なんだ。

今後も、みんなが市の財政状況をチェックできる体制であり続けることが、市の財政運営において、健全性を担保することに繋がるんだよ。

